

圖 情 義 報

2008年度

# 講 義 計 画

桃山学院大学

講

義

十

回

科 目 名			
<b>言語学概論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	西 岡 武 彦

**【講義概要・学習目標】**

前期はことばの意味の世界を考えることを目標にし、後期は最近の言語研究の潮流を紹介し、言語研究の魅力を伝えることを目標にします。

**【講義計画】**

前期

1. ことばの世界の面白さ
2. 意味の世界を考える
3. 言語ともの
4. 意味の類似性
5. 意味の曖昧さ
6. 意味変化
7. 文法と意味
8. 言語と文化

後期

2. 認知言語学
3. 意味論と語用論
4. 語用論の射程
5. 発話行為
6. Griceの理論
7. 関連性理論

**【成績評価の方法】**

小テスト、出席点、定期試験から総合的に評価します。

**【教科書】**

特に無し。プリントを配布します。

**【参考文献】**

適宜案内します。

科 目 名			
<b>言語学－人間言語の音声体系</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	ケビン KevinR. グレグ Gregg

**【講義概要・学習目標】**

言語学は、人文学というよりも自然科学、より具体的に言えば心理学の一分野である。言語学は、様々な下位分野を含み様々な現象を説明しようとするが、本授業では、それぞれを全部、少しずつ触れるのではなく、むしろ1つの下位分野のみに専念し、より深く理解してもらいたい。本授業のトピックは、人間言語の音韻体系である。つまり、ヒトはどうやって母語を発音するのか、発音するためにどのような規則に従うのかを研究する、音韻論という分野を紹介する。世界の言語の例をたくさん見ながら、ヒトの言語知識（の一部）をどう分析すればよいのかを考え、併せて科学としての言語学における仮説形成や仮説検証の方法も理解していただきたい。その理解を達成するために、担当者の説明を聞くだけでなく、学生諸君は実際のデータを分析しパターンを見つけ出し、そのデータを説明する仮説を立て、「言語学をする」必要がある。したがって、宿題を毎回配る。

**【講義計画】**

先ず、音韻規則を理解する必要の背景知識として、音声学の基礎を紹介する。そしてその基礎知識に基づき、音の心的な面を調べる。

第1回：概要

第2回：自然科学としての言語学

第3回～第10回：音声学1～8

発音のしかた：音声器官、音の分類

音声記号、表記；音の変異

第11回～第28回：音韻論1～18

音の心的表示：音素、弁別的素性

音韻規則：心的表示実際の発音のズレを説明する

**【成績評価の方法】**

小テストを毎週行なう。成績は、小テストは70点、学期末試験30点。

**【教科書】**

教科書はないが、その代わりにプリントをたくさん（うんざりさせる程かもしれない）配る。

か  
行

科 目 名			
<b>現代技術論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	辻 洋一郎

**【講義概要・学習目標】**

最近では製造業だけでなく、流通、サービス、物流や金融の現場でも「技術」を知らない仕事になりません。しかし、小難しい数式や理屈は理系＝工学部出身者に任せておけばよいのです。具体的な中身ではなく、技術の『考え方』さえ知っておけば、将来、営業や経理・企画で活躍する皆さん方が、技術者に翻弄されることなく、彼らをコントロールできるのです。

この講義では、身近な新製品や新技術を例にあげて『技術の構図』、『技術的なものの見方』や『技術的な考え方』をマーケティングとからめて理解することに力を置きます。考え方を学習すれば、文科系でも理科系に負けない企画やビジネスチャンスをもにすることも可能です。この講義では、現代技術に対する恐怖心をなくし、技術に親しむことを第一にしています。

**【講義計画】**

- (01) 経済を支える技術革新
  - (02) 技術の歴史と進化－その1
  - (03) 技術の歴史と進化－その2
  - (04) 技術の歴史と進化－その3
  - (05) 身近な製品にみる技術－その1
  - (06) 身近な製品にみる技術－その2
  - (07) 身近な製品にみる技術－その3
  - (08) 身近な製品にみる技術－その4
  - (09) 身近な製品にみる技術－その5
  - (10) 身近な製品にみる技術－その6
  - (11) 身近な製品にみる技術－その7
  - (12) 身近な製品にみる技術－その8
  - (13) 技術の歴史と進化－その1
  - (14) 技術の歴史と進化－その2
  - (15) 技術の歴史と進化－その3
  - (16) 技術の進歩／技能の進化
  - (17) 技術の限界と社会
  - (18) 技術を取り巻く要因
  - (19) 特許と技術－その1
  - (20) 特許と技術－その2
  - (21) 特許と技術－その3
  - (22) 技術とマーケティング－その1
  - (23) 技術とマーケティング－その2
  - (24) 経済を支える技術革新
  - (25) 技術戦略と経済－その1
  - (26) 技術戦略と経済－その2 技術の進歩／技能の進化
  - (27) 技術の限界と社会
  - (28) まとめ
- (順不同)

**【成績評価の方法】**

学期末試験の成績、レポート、講義への積極的参加態度などを総合して評価します。基本的に出席はとりませんが、出席して講義を聴いていないと単位の取得は難しいと考えて下さい。

**【教科書】**

特に指定しません。

**【参考文献】**

講義中に都度推奨、指示します。

科 目 名			
<b>現代思想</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	岩 津 洋 二

**【講義概要・学習目標】**

私たちは人生の途上でさまざまな恐怖に遭遇する。爆弾テロを怖がり、地震を怖がり、お化けを怖がり、友達から嫌われるのを怖がる。じつに多くの恐怖が私たちの生活につきまとい、恐怖ゆえに、私たちはしたいことを思いとどまり、したくないことをあえておこなっている。しかし、私たちの行動の決定にかくも深くかかっている恐怖がどのようなものであるかについて正しく認識している人は多くない。

この講義は、哲学のみならず心理学・生理学・民族学・民俗学などの多様な視点から恐怖を解剖し、その作業をとおして、恐怖にとらわれている自分を見つめなおし、恐怖から自分を解放し、より自由になるための手がかりをさぐるという実践的な課題を追求する。恐怖というキーワードをとおして、世界と自分自身を再発見する試みといってもよい。

**【講義計画】**

- I 恐怖とは何か
  - II 恐怖と文化
  - III 恐怖と秩序
  - IV 恐怖への接近
  - V 恐怖からの解放
- (第1回目の講義で、より詳細な講義計画を示す)

**【成績評価の方法】**

講義への参加度・提出物・テストによる総合的評価

**【参考文献】**

授業中に適宜指示する。

科 目 名			
<b>現代資本主義論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	鈴木 健

**【講義概要・学習目標】**

現代資本主義あるいは現段階の資本主義に著しく特徴的なのは、それがグローバル資本主義として現れていることである。資本（独占資本）の本性は世界主義であるから、グローバル資本主義はその発現として必然なのだが、資本主義はつねにグローバル資本主義と特徴づけられる有り方をしてきたわけではない。現代資本主義がグローバル資本主義と特徴づけられるのは、資本主義の本性である世界主義を発現させる諸条件が世界の諸国家の合意を前提に形成され、文字通りグローバルな資本運動を一般化させる条件が画段的に形成されつつあるからに他ならない。本講義では、グローバル資本主義の諸側面を取り上げ、資本主義がグローバル資本主義として発現するに至った所以について、可能な限り歴史的・理論的に検討を加え、グローバル資本主義の全体としての把握を試みることにする。受講生の現代資本主義理解を一步でも前進させることが目標である。

**【講義計画】**

- 第1週 独占資本の多国籍的展開①
- 第2週 独占資本の多国籍的展開②
- 第3週 独占資本の多国籍的展開③
- 第4週 独占資本の多国籍的展開④
- 第5週 第二次世界大戦後の国際経済①
- 第6週 第二次世界大戦後の国際経済②
- 第7週 第二次世界大戦後の国際経済③
- 第8週 第二次世界大戦後の国際経済④
- 第9週 第二次世界大戦後の国際経済⑤
- 第10週 第二次世界大戦後の国際経済⑥
- 第11週 グローバル資本主義の展開①
- 第12週 グローバル資本主義の展開②
- 第13週 グローバル資本主義の展開③
- 第14週 グローバル資本主義の展開④

**【成績評価の方法】**

講義時間内に行う5回のテストの合計点によって判定する。3回以上の受験回数を満たさない者は無条件に不合格とするので、出席せずに単位取得だけを考える者は、受講しても単位取得の点では無駄であることを予め承知しておくこと。

**【参考文献】**

その都度紹介する。

**【備考】**

テキストは指定せず、毎回レジュメと資料を準備する。講義に欠席してレジュメを受け取らなかった受講生に、次の講義の時間にレジュメを用意してあげることはしないので、受講者はこのことを予め承知しておくこと。

科 目 名			
<b>現代中国社会学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	松崎 征弘

**【講義概要・学習目標】**

長年、中国ビジネスの現場にある経験を踏まえ、実務的、実際の観点に立って、躍進を続ける中国社会学の実情理解を促す。とりわけ本年8月には北京オリンピック開催という国際的に中国が注目される年であり、今や中国を抜きにして卒業後の進路設定も難しい時代であることを講義の節々で強調することで受講生の将来設計に寄与する考え。

**【講義計画】**

一つには中国の政治、経済、社会などの構造、組織、運営法などが我国と異なる点があることへの認識を深める。二つには今や世界トップ4の経済大国となり国際政治での発言力も増している反面、各種の矛盾や格差が存在する点の理解を深める。三つめには過去30年間で急激に経済成長を遂げた背景を我国を含む海外各国との貿易、投資の面からのかかわりで理解を促す

**【成績評価の方法】**

ペーパーテストを行う

**【教科書】**

財団法人日中経済協会 中国経済データハンドブック2007 財団法人日中経済協会  
佐々木信彰 編 現代中国ビジネス論 世界思想社  
高見澤 学 新時代の「能源」フロンティア リプロ

**【参考文献】**

『現代中国産業経済論』世界思想社  
『中国年鑑2007』創土社  
『岩波 現代中国事典』岩波書店

か  
行

科 目 名			
現代中国政治			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	副 島 昭 一

**【講義概要・学習目標】**

この授業では20～21世紀の中国の政治と社会の変容と現在の問題をとりあげる。現在の政権政党である中国共産党の成立から、現在までを通観して見ることにより、現代中国の抱える諸問題や社会主義的市場経済の世界史的な意味について考える。

中国の政治の仕組みは日本やヨーロッパとどこがどのように違うのか、なぜそのような違いが生まれたのか、などの素朴な疑問を歴史を少しさかのぼって明らかにしたい。

**【講義計画】**

抗日戦争における民族的統一と近代国民国家形成への動き、中国共産党の指導の確立と中華人民共和国の成立、新民主主義から社会主義へ「大躍進」と人民公社調整期から文化大革命へ改革開放政策への転換、市場経済と社会主義以上のような現代中国の歩みを概観して、現代中国の直面する課題を考えたい。

**【成績評価の方法】**

出席状況、授業中の発言、レポート、テストなどで総合的に評価する。

**【教科書】**

池田・安井・副島・西村編 図説中国近現代史 法律文化社

**【参考文献】**

天児慧『中国・アジア・日本』（ちくま新書, 700円＋税）  
上村幸治『中国の今がわかる本』（岩波ジュニア新書, 780円＋税）

科 目 名			
憲法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	森 口 佳 樹

**【講義概要・学習目標】**

日本国憲法全般の基本的論点について講義する。理解を助けるために判例の紹介に重点をおくこととする。憲法は、大きくわけると、人権に関する規定と統治機構に関する規定に分けられるが、多少前者に重点をおいて講義を行うこととする。

**【講義計画】**

- 1 憲法の基本
- 2 基本権の歴史
- 3 基本権の享有主体
- 4 公共の福祉論
- 5 特別権力関係
- 6 幸福追求権
- 7 平等権
- 8 精神的自由権（表現の自由以外）
- 9 表現の自由
- 10 経済的自由権
- 11 人身の自由
- 12 参政権
- 13 生存権
- 14 生存権以外の社会権
- 15 国務請求権と国民の義務
- 16 天皇と平和主義
- 17 国会
- 18 内閣
- 19 司法権と裁判所
- 20 違憲立法審査権
- 21 財政と予算
- 22 地方自治

**【成績評価の方法】**

期末試験の成績を主として、出席調査や小テストの成績を従として評価する。もともと、受講者数の多寡により変更することがあるので、詳細は受講者数が確定した後、説明する。

**【教科書】**

土居・網中編著「現代憲法概論」（2006年）嵯峨野書院

**【参考文献】**

別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第5版）」（2007年・有斐閣）

この判例集のうち、Ⅰは、講義中に頻繁に利用する予定である。  
芦部信喜著「憲法（第4版）」（有斐閣）

**【備考】**

六法を必携すること。  
<02～07生>：共通教養科目  
<08生>：共通自由科目（J除く）

科 目 名			
<b>憲法</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4単位	松 田 聡 子

**【講義概要・学習目標】**

本授業の到達目標は、近代立憲主義および、それに基づく日本国憲法の体系を理解することにある。すなわち、憲法が「最高法規」であり「人権の法」であることの理解を理論的に深めていくことにある。抽象的な理論だけでなく、できるかぎり身近な素材や事例から、これら憲法の基礎を習得していく。

上記到達目標を達成するために、本授業は統治機構論と人権論とに大別してすすめていく。その際、日本国憲法に関して条文のほか判例や学説を紹介し、また諸外国の憲法システムなども素材にしていく。

**【講義計画】**

- 第1回 近代立憲主義の意義
- 第2回 日本国憲法の成立と特色
- 第3回 憲法の分類
- 第4回 国民主権
- 第5回 選挙制度の概要
- 第6回 選挙制度の課題
- 第7回 国民主権と天皇制
- 第8回 国会の地位
- 第9回 国会の権能
- 第10回 国会の活動
- 第11回 議院内閣制
- 第12回 衆議院の解散
- 第13回 司法制度の原則
- 第14回 違憲審査制
- 第15回 人権思想の系譜
- 第16回 新しい人権
- 第17回 人権の享有主体
- 第18回 思想・信条の自由
- 第19回 平等原則の審査基準
- 第20回 平等原則の裁判例
- 第21回 自己決定権
- 第22回 信教の自由の意義
- 第23回 政教分離原則
- 第24回 表現の自由の意義
- 第25回 表現の自由の制約基準
- 第26回 社会権
- 第27回 平和主義
- 第28回 戦後改憲論の系譜
- 第29回 まとめ
- 第30回 試験

**【成績評価の方法】**

講義時の提出課題（ただし受講生数による）および学期末試験（論述問題）で判断する。

**【教科書】**

参考文献のほかとくに用いず、レジュメや判決文など印刷物を配布。

**【参考文献】**

芦部信喜『憲法（第四版）』（岩波書店）、佐藤幸治『憲法（第三版）』（青林書院）、渋谷秀樹他『憲法1・2（第3版）』（有斐閣）、辻村みよ子『憲法（第2版）』（日本評論社）

**【備考】**

<02～07生>：共通教養科目  
<08生>：共通自由科目（J除く）

科 目 名			
<b>憲法Ⅱ</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	松 田 聡 子

**【講義概要・学習目標】**

憲法Ⅱでは、いわゆる統治機構に関する事項を学ぶ。憲法は人権保障の法であり、そのための統治構造を定めた法であることは、憲法Ⅰですでに学んでいる。憲法Ⅱでは、日本国憲法における国民主権、権力分立、地方自治、財政、平和主義に関する原理と解釈の習得を目標とする。できるだけ具体的な事件や判例を通して体系的な理解を深めていく。また、わが国の憲法解釈に不可欠な比較憲法からのアプローチも試みる。なお、国家試験の問題などにも適宜ふれていく予定である。

**【講義計画】**

- 1. 憲法と立憲主義
- 2. 憲法の最高法規性と国法体系
- 3. 近代憲法の現代的展開
- 4. 国民主権と人民主権
- 5. 国民主権と国民投票制度
- 6. 国民主権と選挙制度
- 7. 選挙制度の課題
- 8. 国民主権と天皇制
- 9. 天皇制と国事行為
- 10. 天皇と人権
- 11. 国民代表の意味
- 12. 国会の最高機関性と権力分立
- 13. 国会の唯一の立法機関性
- 14. 二院制と国会の権限
- 15. 国会の活動
- 16. 国会議員の特権
- 17. 議院の権限
- 18. 議院内閣制
- 19. 解散権の所在
- 20. 内閣制の課題
- 21. 司法権の意味
- 22. 司法権の帰属と範囲
- 23. 司法権の限界
- 24. 裁判員制度の憲法問題
- 25. 違憲立法審査制の性格
- 26. 違憲立法審査制の限界
- 27. 地方自治制度と財政制度
- 28. 憲法保障、そして平和主義—改憲論の系譜

**【成績評価の方法】**

講義時の提出課題および学期末に行う論述試験で判断

**【教科書】**

参考文献のほか、とくに用いない。

**【参考文献】**

君塚正臣『ベーシックテキスト憲法』（法律文化社）、芦部信喜『憲法（第4版）』（岩波書店）、佐藤幸治『憲法（第3版）』（青林書院）、渋谷秀樹他『憲法2（第3版）』（有斐閣）、辻村みよ子『憲法（第2版）』（日本評論社）

科 目 名			
<b>憲法・基本的人権</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	前 田 徹 生

**【講義概要・学習目標】**

憲法は、大別すると「基本的人権」と「統治機構」の2分野で構成されている。本講義では、とりわけ「基本的人権」を中心に講義をおこなう。講義は、各種試験の受講者にも有益であるように解釈論を核とし、また、理解を早めるために個別分野ごとに具体的な事件・判例を紹介し、可能な限り憲法訴訟論的アプローチを加味しながら憲法学説の体系的な解説を試みる。さらに、今日もはや憲法理解に不可欠となっている欧米との比較憲法的視点を織り交ぜながらできる限り多角的な視野から考察をしていく。

**【講義計画】**

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| 1) 日本国憲法成立史       | 13) 表現の自由      |
| 2) 基本的人権の享有主体     | 14) 集会・結社の自由   |
| 3) 基本的人権の私人間効力    | 15) 被疑者・被告人の権利 |
| 4) 基本的人権と公共の福祉    | 16) 職業選択の自由    |
| 5) 特別な法律関係における人権  | 17) 財産権の保障     |
| 6) 法の下での平等        | 18) 生存権        |
| 7) 個人の尊重と幸福追求権    | 19) 教育を受ける権利   |
| 8) プライバシーの権利      | 20) 労働基本権      |
| 9) 自己決定権          | 21) 国務請求権      |
| 10) 思想・良心の自由      | 22) 参政権        |
| 11) 信教の自由・政教分離の原則 |                |
| 12) 学問の自由         |                |

**【成績評価の方法】**

2/3以上の出席を単位認定の最低条件とする。加えて、時々に行う小テストおよび定期試験を総合して判断する。

**【教科書】**

芦部信喜著、高橋和之補訂 憲法第4版 岩波書店  
 高橋和之・長谷部恭男・石川健治編 憲法判例百選Ⅰ [第5版] 有斐閣  
 高橋和之・長谷部恭男・石川健治編 憲法判例百選Ⅱ [第5版] 有斐閣

**【参考文献】**

佐藤功『日本国憲法概説』（全訂第五版）学陽書房  
 野中・中村・高橋・高見『憲法Ⅰ』（第4版）有斐閣  
 佐藤幸治『憲法』（第三版）青林書院  
 粕谷友介・向井久了・矢島基美編『青林法学双書 憲法』（第二版）青林書院

科 目 名			
<b>憲法入門</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	前 田 徹 生

**【講義概要・学習目標】**

憲法入門は、憲法学の学習を容易するため、「具体から抽象へ」、「素材（基本事例）の習得から理論的整理へ」を基本に、その前段階の憲法学習の基本となる素材（基本事例）の習得に力が置かれる。それにより、以後の解釈学を中心とした学習での抽象的な概念整理に必要な素材（基本事例）を提供する。具体的には、憲法学での興味深い判例や基本概念の理解に不可欠な具体的事例の紹介と解説を中心とする。「生きた法」の現実を具体的に学習し、法律学の学問としての面白さを学び、法学学習への意欲を高めることをねらいとしている

**【講義計画】**

[講義計画]（「」内番号は憲法判例百選第5版事件番号）

- 1) 憲法入門ガイドダンス
- 2) 「12. 三菱樹脂事件」「26. 校則によるバイク制限」
- 3) 「30. 尊属殺重罰規定判決」「31. 嫡出性の有無による 法定相続分差別」
- 4) 「38. 麹町中学内申書事件」「46. 宗教上の理由に基づく「剣道」の不受講」
- 5) 「47. 津地鎮祭訴訟」
- 6) 「57. チャタレイ事件」「74. 北方ジャーナル事件」
- 7) 「101. 小売市場事件」「102. 薬事法違憲判決」「104. 酒類販売の免許制」
- 8) 「142. 朝日訴訟」「143. 堀木訴訟」
- 9) 「151. 全通東京中郵事件」「153. 全農林警職法事件」
- 10) 「180. 恵庭事件」「181～182. 長沼事件」
- 11) 「207. 警察予備隊違憲訴訟」「203. 板まんだら事件」

**【成績評価の方法】**

出席数と定期試験と小テストの結果を総合して成績評価の判断をおこなう。

**【教科書】**

高橋和之・長谷部恭男・石川健治編 別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅰ [第5版]』有斐閣  
 高橋和之・長谷部恭男・石川健治編 別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅱ [第5版]』有斐閣

**【参考文献】**

芦部信喜『憲法判例を読む』岩波書店  
 樋口陽一・山内敏弘・辻村みよ子『憲法判例を読みなおす』日本評論社  
 棟居・赤坂・松井・笹川・常本・市川『基本的人権の事件簿 [第2版]』有斐閣



科 目 名			
<b>語彙・意味論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	藤 原 健

**【講義概要・学習目標】**

ことばによる表現が単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達的手段として、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。

この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみたい。

**【講義計画】**

1. 単語と語彙
  - 1) 単語とは
  - 2) 語彙とは
  - 3) 語形
2. 語の数
  - 1) 基礎語彙と基本語彙
  - 2) 使用語彙と理解語彙
  - 3) 語数とカバー率
3. 語の種類
4. 語構成と造語法
  - 1) 語の構成成分
  - 2) 造語法
  - 3) 造語に伴う音声変化
5. 語の意味
6. 意味に関する問題点
7. 語彙教育のポイント

**【成績評価の方法】**

定期試験（半期科目であるので、春学期1回）により評価する。詳しくは、授業初回に説明する。

**【教科書】**

森田良行・村木新次郎・相沢正夫（編）『ケーススタディ・日本語の語彙』おうふう（桜風社）

**【参考文献】**

浅野百合子（著）『教師用日本語教育ハンドブック（5）語彙』（国際交流基金／凡人社）

科 目 名			
<b>公共経済論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	竹 歳 一 紀

**【講義概要・学習目標】**

公共経済学の基礎について講義する。公共経済学の扱う範囲は広いが、一口で言えば、市場経済において公共部門の介入が必要となる諸問題を経済理論により分析することである。すなわち、①公共部門（政府）の介入が必要となるのはどのような問題に対してか

②適切な介入（政策）とはどういうものかといった点について明らかにすることが重要な課題となる。

- この講義では、
- (1) 公共財と公共投資
  - (2) 外部性と環境問題
  - (3) 所得分配と社会保障

といったテーマをとりあげる予定である。

公共経済学を理解するためには、主としてミクロ経済学の知識が必要となる。講義でも適宜説明を加えるが、経済原論IA-1を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。

ただし、講義では理論だけでなく上記のテーマに関する実態・政策面についての解説も行う。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：公共経済学の対象
- 第3回：厚生経済学の基礎（1）
- 第4回：厚生経済学の基礎（2）
- 第5回：厚生経済学の基礎（3）
- 第6回：厚生経済学の基礎（まとめ）
- 第7回：公共財の理論（1）
- 第8回：公共財の理論（2）
- 第9回：公共投資と日本の財政（1）
- 第10回：公共投資と日本の財政（2）
- 第11回：公共投資と日本の財政（3）
- 第12回：公共投資と日本の財政（4）
- 第13回：公共財と公共投資（まとめ）
- 第14回：外部性の理論（1）
- 第15回：外部性の理論（2）
- 第16回：外部性の理論（3）
- 第17回：環境問題と環境政策（1）
- 第18回：環境問題と環境政策（2）
- 第19回：環境問題と環境政策（3）
- 第20回：環境問題と環境政策（4）
- 第21回：環境問題と環境政策（5）
- 第22回：外部性と環境問題（まとめ）
- 第23回：所得分配の理論（1）
- 第24回：所得分配の理論（2）
- 第25回：所得分配の実態と社会保障制度（1）
- 第26回：所得分配の実態と社会保障制度（2）
- 第27回：所得分配の実態と社会保障制度（3）
- 第28回：所得分配と社会保障（まとめ）
- 第29回：期末試験

**【成績評価の方法】**

学期末試験の成績による。

**【教科書】**

特に指定しない。

**【参考文献】**

講義中に指示する。

か  
行

科 目 名			
工業簿記			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	河 野 勉

**【講義概要・学習目標】**

本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、製造業の簿記（初歩の原価計算を含む）を講義する。

簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習を解く学習を中心につとめて実践的に授業を進めたい。

原価計算論学習のための基礎知識や公認会計士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得に役立つと思うので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

**【講義計画】**

1. 工業簿記の基礎、原価、原価計算
2. 工業簿記の構造
3. 材料費の計算
4. 労務費の計算、予定賃率と賃率差異、経費の計算
5. 個別原価計算、製造間接費
6. 部門費計算
7. 仕損品・作業くずの処理、総合原価計算
8. 等級別総合原価計算、組別総合原価計算
9. 工程別総合原価計算、減損費・仕損費の処理、作業くず・仕損品
10. 標準原価計算
11. 直接原価計算
12. 工場会計の独立
13. 製品の受払・営業費計算
14. 財務諸表（製造業）の作成

**【成績評価の方法】**

定期考査の成績に、適宜ホームワークを課しその提出物等を加味して、総合的に評価する。

**【教科書】**

小林哲夫・伊藤 博（共著）「最新工業簿記増補改訂版」（実教出版）岡本 清・廣本敏朗（編著）「新検定簿記ワークブック 2級工業簿記」（中央経済社）

**【参考文献】**

岡本 清・廣本敏朗（編著）「新検定簿記講義 2級工業簿記」（中央経済社）

科 目 名			
公的扶助論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	瀧 澤 仁 唱

**【講義概要・学習目標】**

- 1 現代社会における公的扶助の理念と意義について理解させる。
- 2 生活保護制度のしくみと近年の動向について理解させる。
- 3 生活保護制度及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方について理解させる。

**【講義計画】**

- 1 現代社会と公的扶助
  - 1) 公的扶助理念の発達
  - 2) 概念と範囲
  - 3) 役割と意義
- 2 低所得問題対策の概要
- 3 生活保護制度のしくみ
  - 1) 目的
  - 2) 基本原理
  - 3) 保護の原則
  - 4) 保護の種類と内容
  - 5) 保護の機関と実施体制及び財源
  - 6) 保護施設の種類
  - 7) 被保護者の権利及び義務
- 4 生活保護の最近の動向
- 5 生活保護法及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
  - 1) 組織・専門職
  - 2) 連携のあり方

**【成績評価の方法】**

論述式筆記試験

**【教科書】**

制度改正が多く、適当な教科書が間にあわないので、授業中に別途指示します。

**【参考文献】**

より詳しく調べたい方は、社会福祉小六法（2008年版、出版社はどこでもよい）又は『社会福祉六法 2008（平成20）年版』（新日本法規）

必要に応じて一部条文はコピーしてわたしますので、特別に専門的な学習のために必要な方以外は購入する必要はありません。

科 目 名			
コース演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	トウ 唐 セイ 成

**【講義概要・学習目標】**

この演習は、学生諸君の知的な大学生活を営むためのコミュニケーション能力を向上させるものです。読む力・書く力・プレゼンする力・ディベートする力という四つのコミュニケーション基礎力を学び、情報の収集・整理のしかたから主張・議論のしかたまで、その内容と形式の両面から実践的に身につけます。

本演習を通じて、他の者と向かい合い、刺激合い、思考を深め、想像していくというコミュニケーションの本質を学んでもらうことを目標としています。

**【講義計画】**

- ・パソコン知識入門（ワード、エクセルおよびパワーポイント）
- ・テキストの読解と要約の方法
- ・レポート・論文の書く方法
- ・プレゼンテーションの方法
- ・ディベートの方法
- ・グループによるプレゼンテーション（2回）
- ・グループによるディベート（2回）

**【成績評価の方法】**

評価方法としては、出席状況、発表、討論への積極的参加する姿勢などを重視したい。

**【教科書】**

松本 茂・河野 哲也 大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法 玉川大学出版部

科 目 名			
コース演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	トウ 唐 セイ 成

**【講義概要・学習目標】**

この演習は、学生諸君の知的な大学生活を営むためのコミュニケーション能力を向上させるものです。読む力・書く力・プレゼンする力・ディベートする力という四つのコミュニケーション基礎力を学び、情報の収集・整理のしかたから主張・議論のしかたまで、その内容と形式の両面から実践的に身につけます。

本演習を通じて、他の者と向かい合い、刺激合い、思考を深め、想像していくというコミュニケーションの本質を学んでもらうことを目標としています。

**【講義計画】**

- ・パソコン知識入門（ワード、エクセルおよびパワーポイント）
- ・テキストの読解と要約の方法
- ・レポート・論文の書く方法
- ・プレゼンテーションの方法
- ・ディベートの方法
- ・グループによるプレゼンテーション（2回）
- ・グループによるディベート（2回）

**【成績評価の方法】**

評価方法としては、出席状況、発表、討論への積極的参加する姿勢などを重視したい。

**【教科書】**

松本 茂・河野 哲也 大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法 玉川大学出版部

科 目 名			
コース演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	竹 歳 一 紀

**【講義概要・学習目標】**

3年次春学期に実施される中国留学研修に向けて、十分な準備をすることが、この演習の内容であり目標である。

春学期から秋学期前半にかけては、企業分析の方法、中国の産業事情について学んでいく。そして、この過程を通じて、レポート執筆やプレゼンテーションの技法についても習熟度を高める。

秋学期後半には、留学研修に関わる各種オリエンテーションも実施する。

**【講義計画】**

おおむね下記の内容を計画している。詳細は第1回目に説明する。

第1回：ガイダンス

第2回～第7回：簡単な企業財務の分析

第8回～第18回：中国の産業事情に関するテキストの輪読

第19回～第29回：南通市およびその周辺地域の経済と社会に関する学習と、中国留学研修に関する各種オリエンテーション

**【成績評価の方法】**

出席、受講態度、および各種課題への取組みとその内容により総合的に評価する。

**【教科書】**

佐々木信彰（編）現代中国産業経済論

科 目 名			
コース演習Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	－	上 野 勝 男

**【講義概要・学習目標】**

春学期は、中国南通での留学研修に必要な事項について演習を行います。秋学期は、留学研修のまとめ、特にビジネスインターンシップの報告書作成に力を集中します。

**【講義計画】**

随時、提示します。

**【成績評価の方法】**

出席と報告による総合評価とします。

科 目 名			
コース中国語 I A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	1単位	坂井田 夕起子

**【講義概要・学習目標】**

正しい発音を身につけ、基本的な単語と基本的な文法項目を学習し、中国語のあいさつ、応答表現や簡単な会話ができるようになることを目指す。合わせて入門段階における文法項目、それを用いて簡単な中国語での作文ができるようになることを目指す。

**【講義計画】**

- 1、発音、声調
- 2、人称代詞
- 3、<是>の文、指示代詞
- 4、数字、疑問文
- 5、一般動詞の文
- 6、動詞<有><在>
- 7、連動文

**【成績評価の方法】**

定期試験と授業内での小テスト、発表、学習態度など総合的に評価する

**【教科書】**

最初の授業で指定する。

**【参考文献】**

『中日辞典』『日中辞典』ともに小学館。または電子辞書。

科 目 名			
コース中国語 I A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	1単位	坂井田 夕起子

**【講義概要・学習目標】**

正しい発音を身につけ、基本的な単語と基本的な文法項目を学習し、中国語のあいさつ、応答表現や簡単な会話ができるようになることを目指す。合わせて入門段階における文法項目、それを用いて簡単な中国語での作文ができるようになることを目指す。

**【講義計画】**

- 1、発音、声調
- 2、人称代詞
- 3、<是>の文、指示代詞
- 4、数字、疑問文
- 5、一般動詞の文
- 6、動詞<有><在>
- 7、連動文

**【成績評価の方法】**

定期試験と授業内での小テスト、発表、学習態度など総合的に評価する

**【教科書】**

最初の授業で指定する。

**【参考文献】**

『中日辞典』『日中辞典』ともに小学館。または電子辞書。

か  
行

科 目 名			
コース中国語 I B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	1単位	陳 梅 隠

**【講義概要・学習目標】**

中国の経済発展によって中国を訪れる観光客が増えている一方、日本企業の進出も増えてきている。言うまでもなく、中国人や中国企業と接触する際に言葉での交流は重要であるが、相手国の風習や、習慣および考え方についての大体の理解があれば、観光であってもビジネスであってもプラスとなるだろう。

従って、この授業では日常生活でよく使う会話を身につけることを目標とし、発音と基本的な文法を勉強するとともに、中国の文化、風習を紹介し、面白い中国語（日本語の漢字と一緒にだが、意味はまったく違う言葉等）の勉強を通して、中国語の学習に対する興味を起し、単語の量を増やすことを望んでいる。時間の余裕があれば中国映画の鑑賞を実行し、中国の文化をたくさんの角度から分かってもらいたい。

**【講義計画】**

この授業は基本的に中国語で行うが、春学期は発音から始めるため、クラスの状況に合わせて中国語と日本語で授業を進める。

最初の9週間は週に一回の授業を利用し、発音を基本とした授業を行う予定である。よく知られているように、中国語の発音は多種類であり、アクセントも厳しく分かれているため、発音が似ていながら意味がまったく異なる言葉がたくさんある。従って、この授業では練習を加え9回（9週）をかけて発音の授業を進めたい。その後の授業は日常会話でよく使われている文法を中心に進めたいと思う。

残りの30分はその日で学んだ知識を利用して学生を中心とする会話の練習を行い、文法を固めるようにしたい。時間がある場合、「面白い中国語」と中国の文化や風習などを紹介したい。日本語と中国語ではいろいろな共通点があるものの、相違点もたくさんある。たとえば、同じ漢字である「娘」だが、日本語の意味が「子供の女性の方」となっているが、中国語の意味では「母親」となっている。このような単語がたくさんあるが、よく使う単語の紹介を通して、中国語に対する興味を起す一方、使い方を間違えないように注意してほしい。

**【成績評価の方法】**

春学期の定期試験60%、出欠席10%、授業中の参加態度10%、小テストなど20%

**【教科書】**

授業中に指示する

**【参考文献】**

適宜提示する

科 目 名			
コース中国語 I B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	1単位	陳 梅 隠

**【講義概要・学習目標】**

中国の経済発展によって中国を訪れる観光客が増えている一方、日本企業の進出も増えてきている。言うまでもなく、中国人や中国企業と接触する際に言葉での交流は重要であるが、相手国の風習や、習慣および考え方についての大体の理解があれば、観光であってもビジネスであってもプラスとなるだろう。

従って、この授業では日常生活でよく使う会話を身につけることを目標とし、発音と基本的な文法を勉強するとともに、中国の文化、風習を紹介し、面白い中国語（日本語の漢字と一緒にだが、意味はまったく違う言葉等）の勉強を通して、中国語の学習に対する興味を起し、単語の量を増やすことを望んでいる。時間の余裕があれば中国映画の鑑賞を実行し、中国の文化をたくさんの角度から分かってもらいたい。

**【講義計画】**

この授業は基本的に中国語で行うが、春学期は発音から始めるため、クラスの状況に合わせて中国語と日本語で授業を進める。

最初の9週間は週に一回の授業を利用し、発音を基本とした授業を行う予定である。よく知られているように、中国語の発音は多種類であり、アクセントも厳しく分かれているため、発音が似ていながら意味がまったく異なる言葉がたくさんある。従って、この授業では練習を加え9回（9週）をかけて発音の授業を進めたい。その後の授業は日常会話でよく使われている文法を中心に進めたいと思う。

残りの30分はその日で学んだ知識を利用して学生を中心とする会話の練習を行い、文法を固めるようにしたい。時間がある場合、「面白い中国語」と中国の文化や風習などを紹介したい。日本語と中国語ではいろいろな共通点があるものの、相違点もたくさんある。たとえば、同じ漢字である「娘」だが、日本語の意味が「子供の女性の方」となっているが、中国語の意味では「母親」となっている。このような単語がたくさんあるが、よく使う単語の紹介を通して、中国語に対する興味を起す一方、使い方を間違えないように注意してほしい。

**【成績評価の方法】**

春学期の定期試験60%、出欠席10%、授業中の参加態度10%、小テストなど20%

**【教科書】**

授業中に指示する

**【参考文献】**

適宜提示する

科 目 名			
コース中国語ⅡA			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	1単位	坂井田 夕起子

**【講義概要・学習目標】**

正しい発音を身につけ、基本的な単語（700語程度）と基本的な文法項目を学習し、中国語での簡単な会話ができるようになることを目指す。合わせて初級段階における文法項目を学習し、それを用いて簡単な中国語作文ができるようになることを目指す。

**【講義計画】**

- 1、形容詞述語文
- 2、方向補語、様態補語
- 3、可能補語、助動詞<会><能><可以>
- 4、結果補語、前置詞
- 5、選択疑問文、過去の経験、完了
- 6、存現文、進行形、持続形
- 7、使役文、受身文、感嘆文、接続詞

**【成績評価の方法】**

定期試験と授業内での小テスト、発表、学習態度など総合的に評価する

**【教科書】**

最初の授業で指定する。

**【参考文献】**

『中日辞典』『日中辞典』ともに小学館。または電子辞書。

科 目 名			
コース中国語ⅡA			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	1単位	坂井田 夕起子

**【講義概要・学習目標】**

正しい発音を身につけ、基本的な単語（700語程度）と基本的な文法項目を学習し、中国語での簡単な会話ができるようになることを目指す。合わせて初級段階における文法項目を学習し、それを用いて簡単な中国語作文ができるようになることを目指す。

**【講義計画】**

- 1、形容詞述語文
- 2、方向補語、様態補語
- 3、可能補語、助動詞<会><能><可以>
- 4、結果補語、前置詞
- 5、選択疑問文、過去の経験、完了
- 6、存現文、進行形、持続形
- 7、使役文、受身文、感嘆文、接続詞

**【成績評価の方法】**

定期試験と授業内での小テスト、発表、学習態度など総合的に評価する

**【教科書】**

最初の授業で指定する。

**【参考文献】**

『中日辞典』『日中辞典』ともに小学館。または電子辞書。

か  
行

科 目 名			
コース中国語ⅡB			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	1単位	陳 梅 隠

**【講義概要・学習目標】**

春学期を通じて勉強した中国語の基礎知識の上で、さらに単語の量を増やし、日常生活でよく使う会話を身につけることを秋学期の学習目標とする。そして、春学期と同様に発音と基本的な文法を勉強するとともに、中国の文化、風習を紹介し、中国のことをもっと理解してもらいたい。

**【講義計画】**

春学期と同様に、授業の90分のうち60分で日常会話でよく使われている文法を中心として行い、残りの30分は会話を行う。

**【成績評価の方法】**

秋学期の定期試験60%、春学期の定期試験20%、出欠席10%、小テスト等10%

**【教科書】**

授業中に指示する

**【参考文献】**

適宜提示する

科 目 名			
コース中国語ⅡB			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	1単位	陳 梅 隠

**【講義概要・学習目標】**

春学期を通じて勉強した中国語の基礎知識の上で、さらに単語の量を増やし、日常生活でよく使う会話を身につけることを秋学期の学習目標とする。そして、春学期と同様に発音と基本的な文法を勉強するとともに、中国の文化、風習を紹介し、中国のことをもっと理解してもらいたい。

**【講義計画】**

春学期と同様に、授業の90分のうち60分で日常会話でよく使われている文法を中心として行い、残りの30分は会話を行う。

**【成績評価の方法】**

秋学期の定期試験60%、春学期の定期試験20%、出欠席10%、小テスト等10%

**【教科書】**

授業中に指示する

**【参考文献】**

適宜提示する



科 目 名			
コース中国語ⅢA			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	1単位	神 道 美映子

**【講義概要・学習目標】**

中国語を1年間勉強した学生に対して、発音と文法の再確認をし、表現力の向上を目指すものである。1年次で習得した約700語を復習しながら、さらに語彙量を増やし、コミュニケーション能力及び読解力をつけるように授業を進める。

**【講義計画】**

1～3回は1年次の学習内容を復習しながら、長文に慣れる。  
4～12回は中国の最新情報をテーマにした文章を読み進める。ディクテンションによるヒヤリング力向上のためのトレーニングも行う。  
最後の2回はこれまでの学習内容を復習する。適宜、小テストを行う。

**【成績評価の方法】**

定期試験により評価するが、出席状況、小テスト、授業中の提出物を加味する。

**【教科書】**

最初の授業で指定する。併せてプリントを配布する。

**【参考文献】**

適宜指示する。

科 目 名			
コース中国語ⅢA			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	1単位	神 道 美映子

**【講義概要・学習目標】**

中国語を1年間勉強した学生に対して、発音と文法の再確認をし、表現力の向上を目指すものである。1年次で習得した約700語を復習しながら、さらに語彙量を増やし、コミュニケーション能力及び読解力をつけるように授業を進める。

**【講義計画】**

1～3回は1年次の学習内容を復習しながら、長文に慣れる。  
4～12回は中国の最新情報をテーマにした文章を読み進める。ディクテンションによるヒヤリング力向上のためのトレーニングも行う。  
最後の2回はこれまでの学習内容を復習する。適宜、小テストを行う。

**【成績評価の方法】**

定期試験により評価するが、出席状況、小テスト、授業中の提出物を加味する。

**【教科書】**

最初の授業で指定する。併せてプリントを配布する。

**【参考文献】**

適宜指示する。

か  
行

科 目 名			
コース中国語ⅢB			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	1単位	ジョウ ユウ コウ 徐 羽 厚

**【講義概要・学習目標】**

一年後期使った教科書を引き続いて使用することによって、中国語の基本文法を完全にマスターし、単語の量も更なる増やせませす。講義の内容を通じて、中国についての知識より多く吸収し、中国語の読む力と話す能力を向上させ、専門である中国ビジネスの勉強により広い基礎を築きたい。

**【講義計画】**

- 第一回：一年後期の内容の回顧
- 第二回：故宮
- 第三回：遊園地
- 第四回：北京の朝
- 第五回：プレゼント
- 第六回：北京動物園
- 第七回：北京ダック
- 第八回：授業のまとめ、中間小テスト
- 第九回：サッカー観戦
- 第十回：プールサイド
- 第十一回：お医者さん
- 第十二回：月の夜
- 第十三回：上海へ
- 第十四回：復習、期末テスト

**【成績評価の方法】**

出席率、授業態度10点、小テスト20点、期末テスト70点。合わせて総合的な評価。

**【教科書】**

相原 茂 陳 淑梅 飯田 敦子 アニメ中国語 恋する  
シャーシャ 朝日出版社

**【参考文献】**

辞書。中国についての日本語週刊誌、関係する新聞記事など。

**【備考】**

授業前の予習とそのあとの復習が必要です。授業中積極的に会話練習を参加することが大事です。二年次終了時まで中国語検定3級合格を目標とする。

科 目 名			
コース中国語ⅢB			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	1単位	ジョウ ユウ コウ 徐 羽 厚

**【講義概要・学習目標】**

一年後期使った教科書を引き続いて使用することによって、中国語の基本文法を完全にマスターし、単語の量も更なる増やせませす。講義の内容を通じて、中国についての知識より多く吸収し、中国語の読む力と話す能力を向上させ、専門である中国ビジネスの勉強により広い基礎を築きたい。

**【講義計画】**

- 第一回：一年後期の内容の回顧
- 第二回：故宮
- 第三回：遊園地
- 第四回：北京の朝
- 第五回：プレゼント
- 第六回：北京動物園
- 第七回：北京ダック
- 第八回：授業のまとめ、中間小テスト
- 第九回：サッカー観戦
- 第十回：プールサイド
- 第十一回：お医者さん
- 第十二回：月の夜
- 第十三回：上海へ
- 第十四回：復習、期末テスト

**【成績評価の方法】**

出席率、授業態度10点、小テスト20点、期末テスト70点。合わせて総合的な評価。

**【教科書】**

相原 茂 陳 淑梅 飯田 敦子 アニメ中国語 恋する  
シャーシャ 朝日出版社

**【参考文献】**

辞書。中国についての日本語週刊誌、関係する新聞記事など。

**【備考】**

授業前の予習とそのあとの復習が必要です。授業中積極的に会話練習を参加することが大事です。二年次終了時まで中国語検定3級合格を目標とする。

科 目 名			
コース中国語ⅣA			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	1単位	神 道 美映子

**【講義概要・学習目標】**

中国語を1年半勉強した学生に対して、正確な発音の徹底と表現力のさらなる向上を目指すものである。ⅢAとⅣAを通じて1年間で新たに600語～700語程度の語彙をマスターできるようにする。

**【講義計画】**

1～3回はⅢAの学習内容を復習しながら、新しい内容に入る。  
4～12回はエッセイ・笑い話・ニュース等、様々な分野の文章に触れながら四技能の実力アップをはかる。  
最後の2回はこれまでの学習内容を復習する。適宜、小テストを行う。

**【成績評価の方法】**

定期試験により評価するが、出席状況、小テスト、授業中の提出物を加味する。

**【教科書】**

最初の授業で指定する。併せてプリントを配布する。

**【参考文献】**

適宜指示する。

科 目 名			
コース中国語ⅣA			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	1単位	神 道 美映子

**【講義概要・学習目標】**

中国語を1年半勉強した学生に対して、正確な発音の徹底と表現力のさらなる向上を目指すものである。ⅢAとⅣAを通じて1年間で新たに600語～700語程度の語彙をマスターできるようにする。

**【講義計画】**

1～3回はⅢAの学習内容を復習しながら、新しい内容に入る。  
4～12回はエッセイ・笑い話・ニュース等、様々な分野の文章に触れながら四技能の実力アップをはかる。  
最後の2回はこれまでの学習内容を復習する。適宜、小テストを行う。

**【成績評価の方法】**

定期試験により評価するが、出席状況、小テスト、授業中の提出物を加味する。

**【教科書】**

最初の授業で指定する。併せてプリントを配布する。

**【参考文献】**

適宜指示する。

科 目 名			
コース中国語ⅣB			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	1単位	徐 <sup>ジョ</sup> 羽 <sup>ウ</sup> 厚 <sup>コウ</sup>

**【講義概要・学習目標】**

一年生るとき学んだ知識に基づいて、さらなる中国語の語学力を向上させ、特に本格的なビジネス会話力をしっかりと身につけることが目標である。そのために：  
生徒たちのニーズに応じて、ビジネス内容を丁寧に説明します  
バラエティに富む反復練習で学習をサポートします。  
ビジネス上必要である基本会話も随時補充します。

**【講義計画】**

- 第一回：オフィスを訪ねる
- 第二回：レストランに食事に行く
- 第三回：銀行にて
- 第四回：商談をする
- 第五回：宴会のセッティングをする
- 第六回：有給休暇をとる
- 第七回：フライトを待つ
- 第八回：アフターサービス
- 第九回：コンテナ輸送
- 第十回：待遇
- 第十一回：病院にて
- 第十二回：国際入札
- 第十三回：財務
- 第十四回：復習、テスト

**【成績評価の方法】**

出席、毎時間の質問、小テストと期末考査の総合的な評価

**【教科書】**

三瀧正道、金子伸一著「やさしいビジネス中国語」（朝日出版社）

**【参考文献】**

「最新実用中国語辞典」（隆美出版社）2002年 または 電子辞典

**【備考】**

授業前の予習とそのあとの復習が必要です。授業中積極的に会話練習を参加することが大事です。二年次終了時まで中国語検定3級合格を目標とする。

科 目 名			
コース中国語ⅣB			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	1単位	徐 <sup>ジョ</sup> 羽 <sup>ウ</sup> 厚 <sup>コウ</sup>

**【講義概要・学習目標】**

一年生るとき学んだ知識に基づいて、さらなる中国語の語学力を向上させ、特に本格的なビジネス会話力をしっかりと身につけることが目標である。そのために：  
生徒たちのニーズに応じて、ビジネス内容を丁寧に説明します  
バラエティに富む反復練習で学習をサポートします。  
ビジネス上必要である基本会話も随時補充します。

**【講義計画】**

- 第一回：オフィスを訪ねる
- 第二回：レストランに食事に行く
- 第三回：銀行にて
- 第四回：商談をする
- 第五回：宴会のセッティングをする
- 第六回：有給休暇をとる
- 第七回：フライトを待つ
- 第八回：アフターサービス
- 第九回：コンテナ輸送
- 第十回：待遇
- 第十一回：病院にて
- 第十二回：国際入札
- 第十三回：財務
- 第十四回：復習、テスト

**【成績評価の方法】**

出席、毎時間の質問、小テストと期末考査の総合的な評価

**【教科書】**

三瀧正道、金子伸一著「やさしいビジネス中国語」朝日出版社

**【参考文献】**

「最新実用中国語辞典」（隆美出版社）2002年 または 電子辞典

**【備考】**

授業前の予習とそのあとの復習が必要です。授業中積極的に会話練習を参加することが大事です。二年次終了時まで中国語検定3級合格を目標とする。

科 目 名			
コース特講－中国文化特講			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	上 野 勝 男

**【講義概要・学習目標】**

この講義は、中国ビジネスキャリアコースの「中国留学研修」における科目である。

中国現地の南通大学の協力の下に、中国の伝統的な文化・習俗を学び、言語ばかりでなくさらに広く中国と中国の人々を理解するためにもうけられた。積極的な受講によって、身体的、感覚的な体験を通じて、中国をさらに深く理解する機会とすることが望まれる。

講義は、座学による中国の伝統的な文化・習俗の授業と並んで、太極拳、卓球などの伝統的なスポーツ、「書道」や「絵画」、民族音楽、楽器の演奏、さらに「料理」などの実演指導なども予定されている。

**【講義計画】**

現地・南通大学にて授業計画は提示される。

**【成績評価の方法】**

講義への出席と、必要に応じて実演発表なども考慮する。

**【備考】**

<06CBC生>のみ対象

科 目 名			
国際会計論 [2]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	柴 理梨亜

**【講義概要・学習目標】**

国際化、グローバル化がますます進む現在の環境では会計もその影響に対応していかなければならない。1973年に日本も参加して発足した国際会計基準委員会が、現代のニーズに対応するためにその組織改革を実施した。そして、グローバル・スタンダードを目指す国際財務報告基準は世界中で認識されるようになってきた。

日本でも民間の会計基準設定機関「企業会計基準委員会（ASBJ）」が設置され、2005年から国際財務報告基準との調和化または統合化に向けた協議が開始される。

本講義では、グローバル・スタンダードとなった国際財務報告基準とその歩みについて学ぶことに加えて、実際に企業が発行している英文財務諸表を利用しながら多くの英語の会計専門用語を身につけ、英文財務諸表の内容を理解できるようになることも目的である。

受講するに当たって、簿記と会計の基礎知識と興味が必要条件。

**【講義計画】**

1. 国際化時代のモノサシとしての会計
2. 日本の会計ビッグバン
3. IASCの歩みと組織改革
4. 世界共通のモノサシを求めて
5. エンロン事件とSOX法
6. EUの会計戦略
7. 会計基準の国際的収斂
8. 国際会計基準の将来像
9. 英文財務諸表を読む

**【成績評価の方法】**

出席、平常点とテストの結果を総合的に評価する。授業中に積極的に発言することが大切。

**【教科書】**

橋本 尚 2009年 国際会計基準の衝撃 日本経済新聞

**【参考文献】**

中央青山監査法人（編）「国際会計基準なるほどQ&A知っておきたい102のポイント」中央経済社

徳賀芳弘（著）「国際会計論相違と調和」中央経済社

飯田信夫（著）国際会計教育協会（編）「国際財務報告基準（IFRS）入門日本基準との違いをみる」財經詳報社

か  
行

科 目 名			
<b>国際関係論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	松 村 昌 廣

#### 【講義概要・学習目標】

注意！！

この講義は「原論」のコースです。したがって、極めて哲学的、理論的、理屈詰めの内容となります。社会科学の基礎的な素養がないと、ついてこれない可能性が強いです。動機付けの強い学生向きです。「国際」という名前に迷わされないように留意してください。楽しく入門的な内容を希望する学生は、ビデオなどを多用する「国際政治事情研究」の方を履修することをすすめます。国際政治関係を体系的に理解するために、国際政治主体、行動、過程、そして構造に注目し、冷戦体制崩壊後のダイナミズムを理論的に把握する。

#### 【講義計画】

##### 1 導入

- 1) 国際関係論と国際関係における日本
- 2) 国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システムの理解
- 3) 社会科学における認識・方法論的論争と国際関係論
  - (1) 現実主義 VS 理想主義
  - (2) 伝統主義 VS 科学主義
  - (3) 誇大理論主義 VS 個別理論主義
  - (4) 講師の見解

##### 2 総論

- 1) 基本的捉え方
  - (1) 現実主義 (2) 多元主義 (3) グローバリズム
  - (4) 講師の見解
- 2) 分析のレベル
  - (1) 政策決定システム (2) 国家システム
  - (3) 国際システム (4) 講師の見解

##### 3 各論

- 1) 軍事的側面
  - (1) 安全保障 (2) 紛争 (3) 講師の見解
- 2) 経済的側面(貿易・金融・投資・技術・開発)
  - (1) 市場機能中心主義 (2) 国家機能中心主義
  - (3) 資本形成中心主義 (4) 講師の見解
- 3) 秩序づけのための組織化側面
  - (1) 国際法 (2) 国際機構 (3) 国際レジーム

##### 4 結論

- 1) 冷戦後の国際構造
- 2) 日本の国際行動とその将来

#### 【成績評価の方法】

- 1) 出席・受講状態 50%
- 2) 前期試験 20%
- 3) 後期試験 30%
- 4) 冬休みレポート 20% (希望者のみ)

#### \*冬休みレポート

参考文献3冊を読み、各著者の(1)国際政治観(2)国際政治学観の主要な内容について、三者を対比しながら簡潔に要約し、それぞれについて要約しない。

#### \*評価の目安

- 80～100% . . . . . A  
 70～79% . . . . . B  
 60～69% . . . . . C

#### 【教科書】

ポール・R・ピオティ、マーク・V・ウェッセルズ 国際関係論  
 — 現実主義・多元主義・グローバリズム 彩流社

#### 【参考文献】

E・H・カー『危機の20年』(岩波文庫)  
 モーゲンソー『国際政治』(福村出版)  
 シューマン『国際政治』(東大出版社)

科 目 名			
<b>国際機構論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	松 掛 暢

#### 【講義概要・学習目標】

元来、国際社会では国家のみが国際法の主体であった。しかし現在、国際機構はその重要性がますます増している。単一の国家のみでは対処することのできない事態が、現在の国際社会には数多く存在しているといえよう。この講義では、国際機構が発展してきたその過程にはじまり、国際機構の特徴と役割についての説明をする。その中で、国際機構が取り組むべき今後の課題について、各自が問題意識を持ち、かつどう対処すべきかについて考えることを目指す。

#### 【講義計画】

- 1 国際機構と現代国際社会
- 2 国際機構発展の歴史(1)
- 3 国際機構発展の歴史(2)～国際連盟～
- 4 国際機構の設立と終了
- 5 国際機構の組織構造
- 6 国際機構の意思決定(1)
- 7 国際機構の意思決定(2)
- 8 決議の法的効果
- 9 国際機構の国際法上の地位
- 10 国際機構の国内法上の地位
- 11 国際機構と加盟国(1)
- 12 国際機構と加盟国(2)
- 13 国際機構相互の関係
- 14 国際機構の職員
- 15 前期のまとめ
- 16 国際紛争の平和的解決(1)
- 17 国際紛争の平和的解決(2)
- 18 集団安全保障制度(1)
- 19 集団安全保障制度(2)
- 20 平和維持活動(1)
- 21 平和維持活動(2)
- 22 冷戦後の集団安全保障制度(1)
- 23 冷戦後の集団安全保障制度(2)
- 24 専門機関
- 25 国連改革
- 26 地域的国際機構(1)
- 27 地域的国際機構(2)
- 28 人権問題への取り組み(1)
- 29 人権問題への取り組み(2)
- 30 講義のまとめ

#### 【成績評価の方法】

原則として学期末テストにより評価する。なお、講義中に行う小テストおよび平常点を成績評価の際に考慮することもある。

#### 【教科書】

特に指定しない。場合によっては、プリントを配布する。

#### 【参考文献】

最上敏樹「国際機構論」(東京大学出版会)  
 横田洋三編著「新国際機構論」(国際書院)

科 目 名			
<b>国際金融論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	一ノ瀬 篤

**【講義概要・学習目標】**

為替相場、国際収支、通貨制度などについて、基礎的知識と用語を習得することを目標とする。金融政策、インフレ、海外投資などが重要関連項目なので、これらについても学習することとなる。

出来る限り、1回ごとの完結性を目指す。

**【講義計画】**

- |                |                   |
|----------------|-------------------|
| 1 円高・円安：為替相場   | 15 為替相場理論②：購買力平価  |
| 2 為替相場と経済      | 16 銀行間相場と対顧客相場    |
| 3 金本位制度①：特質    | 17 先物為替取引         |
| 4 金本位制度②：歴史    | 18 利率平価の話         |
| 5 IMF制度①：特質    | 19 貿易取引の実際        |
| 6 IMF制度②：歴史    | 20 貿易黒字と海外投資      |
| 7 管理通貨制度       | 21 円の国際化          |
| 8 変動相場制度       | 22 為替相場と金融政策①：原理  |
| 9 国際収支①：経常収支   | 23 為替相場と金融政策②：実際  |
| 10 国際収支②：資本収支  | 24 日本の対外投資        |
| 11 国際収支の仕分け問題  | 25 まとめ① 為替相場と通貨制度 |
| 12 国際収支と為替相場   | 26 まとめ②：国際収支      |
| 13 為替相場理論① 収支説 | 27 まとめ③：為替相場理論    |
| 14 中間試験        | 28 期末試験           |

**【成績評価の方法】**

中間試験と期末試験を均等に評価。また折々の小テストを参考にする。

**【教科書】**

一ノ瀬作成のレジメにしたがって講義する。

**【参考文献】**

秦忠夫・本田敬吉『国際金融の仕組み』有斐閣アルマ（最新版が望ましい）

科 目 名			
<b>国際経営論 [2]</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	藤原 照明

**【講義概要・学習目標】**

世界は益々グローバル化する現環境下、グローバルビジネスや経営は実際にどのように行われているのか、日本企業多国籍化の要因と現状に付き講師の国際経営とビジネスの現場経験を軸に日々変化する国際情勢を交えてその実態を学ぶ。

教科書は特に指定せず講師作成の資料（パワーポイント）を中心に進め、日々の新聞およびホームページを参考に企業の取る国際戦略を把握・分析することにより、国際経営実態の理解を目指す。

**【講義計画】**

- <国際経営序論>
1. 国際ビジネスと国際経営の歴史
  2. 日本の経済成長とその基盤
  3. 国際ビジネスの推移と規模
- <国際ビジネス環境について>
4. プレイトンウッズ体制が与えた影響
  5. 世界のFTA/EPA及び日本のFTAの現状について
  6. 国際経営とリスク・マネジメント
  7. 異文化理解の重要性
  8. 原油確保とイスラム原理主義
- <国際経営戦略>
9. 海外進出のパターン
  10. 直接投資と国際分業
  11. グローバル経営戦略
  12. 国際マーケティング
  13. 組織管理と人事管理
- <まとめ>
14. 巨大市場BRICsの最新状況について

**【成績評価の方法】**

期末テスト、出席及び受講態度

**【参考文献】**

伊藤元重著『グローバル経済の本質』ダイヤモンド社  
 久保広正著『貿易入門』日本経済新聞社  
 根本孝他編『国際経営を学ぶ人のために』世界思想社  
 吉原英樹編『国際経営論への招待』有斐閣ブックス

か  
行

科 目 名			
<b>国際経済論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	モグベル      ザファル Moghbel    Zafar

**【講義概要・学習目標】**

現在は「グローバル化の時代」と言われていますが、グローバルな環境では「ヒト・モノ・カネ・技術・情報」が国境にほとんどさまたげられることなく双方向に移動しています。この講義では、グローバルな双方向の動きの中核をなす「モノの移動」（つまり、貿易）に焦点を置きます。あつかうテーマとしては、貿易の歴史、日本の貿易の現状分析、貿易実務、貿易理論の基礎などです。

この講義に登場する貿易の現状分析と理論体系は過去250年にわたり次のような問題を提起しつづけてきました。そもそも、貿易はどのような条件のもとに起こるのか、貿易の方向はどのようにして決まるのか。貿易のもたらす利益はどのようにして分配されるのか。自由な貿易はなぜ望ましいのか。そして、関税の導入などの貿易政策の実施は国内および国際社会にどのような影響をもたらすのか。これらの課題を、現状分析と理論の観点から分かりやすく解説します。

**【講義計画】**

1. はじめに：貿易と文明の歩み
2. 国際収支統計の基礎知識
3. 国際収支と対外資産負債残高
4. 国際収支の調整とアプゾープション・アプローチ
5. 国際収支の調整と弾力性アプローチ
6. 日本の国際収支の歴史
7. 日本の国際収支の最近の動向
8. 国際収支のまとめ
9. 貿易理論の概要と貿易の「錬金術」
10. 重商主義と絶対優位
11. 特化と分業の限界
12. 自由貿易のメリット・デメリット
13. 保護主義のメリット・デメリット
14. 機会費用と生産可能性フロンティア
15. オフファー・カーブと交易条件
15. 比較生産費説とリカードの貿易理論 - 1
16. 比較生産費説とリカードの貿易理論 - 2
17. ヘクシャー・オリーン理論
18. 要素賦存と集約度
19. 要素価格均等化定理
20. ヘクシャー・オリーン理論とリオンチェフ逆説
21. 貿易理論のまとめ
22. 貿易政策の概要
23. 日本の関税歴と関税構造
24. 日本の関税制度：特恵関税と高関税品目
25. 関税効果の分析 - 1
26. 関税効果の分析 - 2
27. 経済統合
28. 貿易政策のまとめ

**【成績評価の方法】**

1. 期末試験の結果 (全体の70%)
2. 授業中に行う複数回の小テストの結果 (全体の30%)

**【教科書】**

澤田 康幸 国際経済学 新世社

**【参考文献】**

講義中に補足資料を配布します。

科 目 名			
<b>国際交流特別講義－ヴェトナム政経事情</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	蓮 田 隆 志

**【講義概要・学習目標】**

現代ベトナムについての基礎的知識を獲得するとともに、ベトナム語入門の内容も取り扱う。秋学期では、政治や経済を中心に扱う。近年の経済成長もあって、ベトナム戦争を除けば美食やエスニック小物など文化面が中心だったベトナムのイメージもかなり豊かになってきた。しかしながら、まだまだ極端で断片的な部分が多い。本講義を通じて、バランスのとれた「等身大の他者」としてベトナムを見られるようになって欲しい。

**【講義計画】**

0. オリエンテーション
1. ベトナムができるまで：歴史と現在
2. 現代ベトナムの政治
3. 現代ベトナムの経済

**【成績評価の方法】**

期末試験およびコメントカード（詳細は初回に説明する）を基本とするが、受講者数や受講生の希望などを勘案して決定する。

**【教科書】**

今井昭夫・岩井美佐紀（編著）『現代ベトナムを知るための60章』明石書店

**【備考】**

語学部分や基礎基本の部分が重複するが、春学期の「国際交流特別講義－ヴェトナム文化事情」と重複履修しても問題が少なくなるよう配慮する。



科 目 名			
国際交流特別講義－ヴェトナム文化事情			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	蓮 田 隆 志

**【講義概要・学習目標】**

現代ベトナムについての基礎的知識を獲得するとともに、ベトナム語入門的内容も取り扱う。春学期では、自然との関わりや文化や社会の側面を中心に扱う。

アオザイや美食など、すっかり日本での知名度が上がったベトナムだが、まだまだ知られていない側面が多い。本講義を通じて、バランスのとれた「等身大の他者」としてベトナムを見られるようになって欲しい。

**【講義計画】**

0. オリエンテーション
1. ベトナムって？：歴史と現在
2. ベトナムの自然環境
3. ムラのベトナム／マチのベトナム
4. ベトナム社会の現状

**【成績評価の方法】**

期末試験およびコメントカード（詳細は初回に説明する）を基本とするが、受講者数や受講生の希望などを勘案して決定する。

**【教科書】**

今井昭夫・岩井美佐紀（編著）『現代ベトナムを知るための60章』明石書店

**【備考】**

語学部分や基礎基本の部分が重複するが、秋学期の「国際交流特別講義－ヴェトナム政経事情」と重複履修しても問題が少なくなるよう配慮する。

科 目 名			
国際交流特別講義－海外留学事情			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	野 原 康 弘

**【講義概要・学習目標】**

桃山学院大学は、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリアにいくつもの協定校をもち、そうした協定校への長期留学、各国での短期語学研修、さら日本語教育実習や国際ボランティア活動など多様なプログラムを実施しています。この講義ではこうしたプログラムへの参加を実際に計画している学生のために、外国語の学習法、各国の大学・社会事情、留学・研修の意義、将来の展望など、各国の事情をよくご存知の先生方に順番に講義していただきます。

留学は若い学生諸君にとって特別の体験です。外国語と異文化のなかで苦労しつつ、しかし日本にいたのでは分からない多くのことを学べます。自分では信じられないほど勉強する機会にもなるでしょう。そんな体験をより多くの学生にしてほしいと思います。そのためにこの講義では、海外留学にかんする学生の漠然とした不安を取り除き、明確な課題を見出すことを目標にしました。

講義終了時に国際センターのプログラムのいずれかに参加することが望ましい。

**【講義計画】**

- 1) 桃山学院大学での留学・研修の可能性について
- 2) 英語圏への留学・研修について
- 3) 英語学習の方法と体験
- 4) 海外での日本語教育実習
- 5) 国際ボランティア活動
- 6) インドネシア留学・研修について
- 7) ドイツ留学・研修について
- 8) イタリア留学・研修について
- 9) 中国、台湾留学・研修について
- 10) 韓国留学・研修について
- 11) ロシア留学・研修について
- 12) フランス留学・研修について
- 13) スペイン留学・研修について
- 14) 各留学・研修についてのまとめ
- 15) 学期末試験

(ゲスト講師の都合により、各国事情の順番を変更する場合があります。)

**【成績評価の方法】**

学期末試験  
出席重視（少なくとも11回以上出席すること。公欠以外の欠席は、いかなる理由も認めません。）

\*成績評価方法が昨年のもので大きく違うので注意すること。

**【教科書】**

使用しません。

**【参考文献】**

必要があれば、講義中に指示します。

**【備考】**

インテグレーション科目

科 目 名			
<b>国際交流特別講義－海外留学事情</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	野 原 康 弘

**【講義概要・学習目標】**

桃山学院大学は、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリアにいくつもの協定校をもち、そうした協定校への長期留学、各国での短期語学研修、さら日本語教育実習や国際ボランティア活動など多様なプログラムを実施しています。この講義ではこうしたプログラムへの参加を実際に計画している学生のために、外国語の学習法、各国の大学・社会事情、留学・研修の意義、将来の展望など、各国の事情をよくご存知の先生方に順番に講義していただきます。

留学は若い学生諸君にとって特別の体験です。外国語と異文化のなかで苦勞しつつ、しかし日本にいたのでは分からない多くのことを学べます。自分では信じられないほど勉強する機会にもなるでしょう。そんな体験をより多くの学生にしてほしいと思います。そのためにこの講義では、海外留学にかんする学生の漠然とした不安を取り除き、明確な課題を見出すことを目標にしました。

講義終了時に国際センターのプログラムのいずれかに参加することが望ましい。

**【講義計画】**

- 1) 桃山学院大学での留学・研修の可能性について
- 2) 英語圏への留学・研修について
- 3) 英語学習の方法と体験
- 4) 海外での日本語教育実習
- 5) 国際ボランティア活動
- 6) インドネシア留学・研修について
- 7) ドイツ留学・研修について
- 8) イタリア留学・研修について
- 9) 中国、台湾留学・研修について
- 10) 韓国留学・研修について
- 11) ロシア留学・研修について
- 12) フランス留学・研修について
- 13) スペイン留学・研修について
- 14) 各留学・研修についてのまとめ
- 15) 学期末試験

(ゲスト講師の都合により、各国事情の順番を変更する場合があります。)

**【成績評価の方法】**

学期末試験

出席重視(少なくとも11回以上出席すること。公欠以外の欠席は、いかなる理由も認めません。)

\*成績評価方法が昨年のもので大きく違うので注意すること。

**【教科書】**

使用しません。

**【参考文献】**

必要があれば、講義中に指示します。

**【備考】**

インテグレーション科目

科 目 名			
<b>国際社会福祉論 [2]</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	大 野 順 子

**【講義概要・学習目標】**

国際的な視点から、主に開発途上国等における福祉に関する具体的な問題(例:障がい者問題、貧困問題、人権問題、開発問題等)を取り上げ、その現状や国の政策、民間による支援活動について理解を深め、共生できる国際社会の実現について考える。

**【講義計画】**

講義概要(扱うテーマ)

- (1) 国際社会福祉という概念について
- (2) 世界のマイノリティ
  - 子どもの人権
  - 女性(ジェンダー)
  - グローバリゼーションと少数民族(エスニックアイデンティティ)
  - 障がい者
  - その他
- (3) 諸外国の福祉に関わる諸政策、及び、法/条約/宣言等
- (4) 国内外における事例研究
  - 教育格差(途上国における初等教育、識字問題)
  - 開発と貧困
  - 人権問題(多様性と統合: diversity and unity)
  - その他
- (5) 国際機関、日本政府、及び、各国支援団体の役割
  - 国連、開発NGO、政府等のはたらき

※具体的なテーマ・トピック、国、地域については状況に応じて最新のものを扱う予定です。

以上の項目を中心に、(1)～(5)のテーマを関連させながら進めていきます。

**【成績評価の方法】**

- ①出席(コメントカードの提出、その内容)
  - ②課題レポート
  - ③最終レポート、及び試験
- 以上により、総合的に評価する。

**【教科書】**

特に指定しない。

毎時、テーマに沿ったレジュメ、資料を配布する。

**【参考文献】**

- 『生活と開発』佐藤寛, 青山温子編著 日本評論社, 2005. 9  
 『国際教育開発論 理論と実践』黒田一雄, 横関祐見子編 有斐閣, 2005. 4  
 『グローバル化と社会的「弱者」』日本平和学会編 早稲田大学出版部 2006. 11  
 『Human Development Report 2006 人間開発報告書2006』国連開発計画 (UNDP) 2006年

その他、適時紹介します。

科 目 名			
<b>国際政治史</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	鈴木博信

**【講義概要・学習目標】**

ここでの国際政治史は「冷戦史」に絞ってとりあげる。  
「冷戦」というのは、ことわるまでもないが、第2次大戦終結の1945年から始まりソ連が崩壊・消滅した1991年をもって終る、「米ソ両超大国がしのぎを削って地球の覇権を競り合ったものの直接の軍事対決だけは全力をあげて回避しつづけた『奇妙な大戦争』」にはかならない。その間、片や両超大国の同盟国や「ひもつき」国のあいだの「熱い戦争」はほとんど絶えることがなかったのである。

冷戦時代の世界はどんな仕組みでうごいていたのか？ この構造をとりわけ「ヨーロッパ世界」に重点をおいてあぶり出し、米国の覇権に急速にかげりが出てきた「いまの世界」をみとおすための足場の構築を試みたい。

**【講義計画】**

- I. はじめに——分析の足がかり
  1. 「民主主義」の興亡
  2. 帝国・国民・少数民族
  3. 健康体と病身
  4. 「資本主義の危機」
- II. 共通の敵が消え去ると相互不信と猜疑心がもどってきた
  5. 「第2戦線」——第2次大戦とは何だったのか
  6. 核兵器の誕生
  7. ケナンの「封じこめ」政策——西側冷戦戦略の大理論①
  8. トルーマン・ドクトリンとマーシャル・プラン
  9. 「人民民主主義」の登場
  10. 「人民民主主義」の建設をすすめたものの・・・
  11. ユーゴスラヴィア破門——ソ連圏にはやくも亀裂
  12. ベルリン封鎖——ドイツ分裂す
  13. 朝鮮半島に「熱い戦争」——金・毛・スターリンそれぞれの思惑
- III. フルシチョアの大ばくち
  14. 霊廟の御神体、スターリンを批判
  15. 世界が息をひそめた13日間——「キューバのミサイル危機」
- IV. 息切れはもうはじまっていた
  16. 「命令経済」のムリをシベリアの新油田がカバーしていたものの…
  17. 「共産党の所有する国家」の福祉制度にはガタがきていた
- V. アメリカはベトナム戦争にのめりこみ
  18. 「将棋倒れ」のおそれ——西側冷戦戦略の大理論②
  19. 「民主主義」の様がわり——ヨーロッパの1950～75年
  20. 腕力だけは追いついた——SALT & MAD、そしてアフリカ
  21. ソ連も「ソ連のベトナム戦争」にはまりこむ
  22. わが道を行く国々、集団生まれる
- VI. 冷戦の幕引き役、続々登場
  23. 先導したのは2人のポーランド人——ローマ法王ヨハネ・パウロⅡ世と電気工ワレサ
  24. レーガン、SDI、国際石油価格
  25. ソ連圏「共産主義」崩壊す①
  26. ソ連圏「共産主義」崩壊す②
  27. ソ連圏「共産主義」崩壊す③
- VII. だれが勝ったのか？ 何が勝ったのか？
  28. }
  29. } アメリカと拡大EU、そしてプーチンのロシア
  30. }

**【成績評価の方法】**

- 定期試験にかわる秋学期末の「大レポート」——最低2冊以上の文献・資料を使用して。
- 夏休み前に課す「小レポート」の宿題。
- 講義のあとに随時、提出して頂く「ミニ・コメント」。
- 以上を総合して評価する。

**【教科書】**

特定せずに随時、文献・資料を紹介する。

**【参考文献】**

松岡完ほか『冷戦史』（同文館出版）、仲晃『ボックス・アメリカーナの転回——ジャーナリストのみた現代史』（岩波書店）、アダム・ウラム『膨張と共存——ソヴェト外交史』（鈴木博信訳、全3巻、サイマル出版会）、下斗米伸夫『アジア冷戦史』（中央公論新書）、赤木昭夫『アメリカは何を考えているのか』（岩波ブックレット）、ヴォイチェフ・マストニー『冷戦とは何だったのか——戦後政治史とスターリン』（秋野豊ら訳、柏書房）、J. L. ガディス『冷戦』（河合秀和ら訳、彩流社）。  
——●歴史学研究会編『世界史年表』（岩波書店）と●『角川世界史辞典』（角川書店）はぜひとも座右に置いてください。信頼できる年表と辞典は歴史の勉強における「酸素と赤血球」です。かならず手元に置かれるようお願いいたします。

か  
行

科 目 名			
<b>国際政治事情研究</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	松 村 昌 廣

**【講義概要・学習目標】**

政治学、社会学、経済学など、社会科学の基礎をよく理解した、3・4年生を念頭に講義を行う。  
この講義では発展途上世界を比較分析するための基本的な発想、着眼点、分析手法を会得するため、はじめに初歩的な理論的考察を行い、その後、いくつかの重要なケース・スタディーに取り組む。

しかし、広大な発展途上世界を全てカバーすることは不可能であるから、多様な理論の適用可能性、時事的重要性に鑑み、この「講義計画」にあるように、大きく分けて3つのテーマを取り扱うこととする。この講義により、発展途上国を対象とする地域研究において政治、経済、社会の諸側面から、いかに総合的な分析に取り組むかを実例を示しながら学生に理解させたい。

ビデオや資料を多用して、全体としては初級レベル、時として中級レベルの講義内容になるよう講義を進める。

**【講義計画】**

1. 総論
  - 1) 国際関係論と地域研究
  - 2) システム論的アプローチ
  - 3) 比較研究アプローチの危機・・・「理論の島々」
2. 各論
  - 1) 民族紛争
  - 2) 国際テロ・アフガン問題
  - 3) 東アジア
    - (1) 朝鮮民主主義人民共和国
    - (2) 中華人民共和国
    - (3) 日本
3. 結論 「ポスト冷戦」後の地域研究

**【成績評価の方法】**

Aを目指す学生・・・講師の指示に従い研究レポートを作成  
B・Cを目指す学生・・・通常の学年末試験を受ける  
毎回出欠をとり、最低でも8割の出席率がない者には単位を与えない。

**【教科書】**

松村昌廣『激動する米国覇権』現代図書 現代図書

科 目 名			
<b>国際法</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	松 掛 暢

**【講義概要・学習目標】**

ここ数年、国際社会を賑わす事件が新聞などのメディアで報じられており、今まさに国際法の転換期を迎えようとしている。この講義では、そのような事例をより理解するために必要な、国際法の基本的な内容を解説する。その中で、国際法に関係すると思われる事例を紹介して、これらの事件は国際法的にどのように評価できるのかについて、各自が理解する力を養うことを目指す。

**【講義計画】**

- 1 国際法とは
- 2 国際法の法的性質
- 3 国際法と国内法の関係
- 4 国際法の法源（1）～国際慣習法～
- 5 国際法の法源（2）～条約その他～
- 6 条約法（1）
- 7 条約法（2）
- 8 条約法（3）～条約の無効原因～
- 9 条約法（4）～条約の終了原因～
- 10 国際法の主体
- 11 国家承認
- 12 政府承認
- 13 外交使節（1）
- 14 外交使節（2）
- 15 前期のまとめ
- 16 国家の基本的権利義務（1）
- 17 国家の基本的権利義務（2）
- 18 海洋法（1）
- 19 海洋法（2）～無害通航権～
- 20 海洋法（3）～公海自由の原則～
- 21 犯罪人引渡し
- 22 紛争の平和的解決（1）
- 23 紛争の平和的解決（2）～裁判以外の解決方法～
- 24 紛争の平和的解決（3）～国際裁判～
- 25 平和と安全の維持（1）
- 26 平和と安全の維持（2）～自衛権～
- 27 平和と安全の維持（3）～集団安全保障制度～
- 28 外国人の人権
- 29 国際化地域
- 30 後期のまとめ

**【成績評価の方法】**

原則として学期末テストにより評価する。なお、講義中に行う小テストおよび平常点を成績評価の際に考慮することもある。

**【教科書】**

松井芳郎ほか「国際法」（Sシリーズ）〔第5版〕有斐閣

**【参考文献】**

松井芳郎ほか「ベーシック条約集」（東信堂）  
杉原高嶺ほか「現代国際法講義」（有斐閣）

科 目 名			
<b>国民経済計算論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	桂 昭 政

**【講義概要・学習目標】**

国民経済計算の知識はマクロ経済学の勉強のみならず、日本経済の動きを理解するうえで不可欠である。本講義では国民経済計算の基礎知識について学習するとともに、わが国の国民経済計算データを利用して日本経済の動向の把握をも行っていききたいと考えている。なお、可能な限りデータのグラフ作成等のパソコン実習を行う考えである。

**【講義計画】**

1. 経済循環と国民経済計算－日本経済の全体像の把握
2. 経済循環図式と経済学者－マルクスの再生産表式
3. 経済循環図式と経済学者－ケインズの所得循環図
4. 経済循環図式と経済学者－レオンチェフの産業連関表
5. 現代の経済循環図式－国連のSNA
6. 現在の「モノ」、「フロー」を総合した経済循環図式である産業連関表の見方（1）販路構成と費用構成、産業連関表の4つのブロック
7. 産業連関表の見方（2）産業連関表の特徴である第1ブロックについて
8. 産業連関表の見方（3）産業連関表の第2ブロックと国民所得統計の関係
9. 産業連関表の見方（4）産業連関表の第3ブロックと国民所得統計の関係
10. 現在の「モノ」、「カネ」、「フロー」、「ストック」を総合した経済循環図式であるSNAの生産局面－SNAデータから見た日本経済
11. SNAの生産局面の把握－SNAの生産勘定の解説
12. SNAが対象とする生産活動の範囲－帰属家賃等について
13. SNAの生産勘定とGDP（国内総生産）
14. SNAの生産勘定とGDE（国内総支出）
15. SNAの所得の分配局面－SNAデータから見た日本経済
16. SNAの所得分配局面の把握－SNAの所得勘定の解説
17. SNAの所得勘定と国民総所得（国民総生産）
18. SNAの所得勘定と国民所得
19. SNAの所得勘定と所得の再分配（1）
20. SNAの所得勘定と所得の再分配（2）
21. SNAの所得勘定と可処分所得、消費支出
22. SNAの所得勘定と貯蓄率
23. SNAの資本蓄積の局面－SNAデータから見た日本経済
24. SNAの資本蓄積局面の把握－SNAの蓄積勘定の解説
25. SNAの蓄積勘定とI－Sバランス
26. SNAの蓄積勘定と日本経済の資金の循環
27. SNAのストック勘定とキャピタルゲイン、キャピタルロス
28. SNAのストック勘定と日本経済の資産構成の特徴

なお、データ処理実習等の関係で順序が変動する場合があります。

**【成績評価の方法】**

学期末に行う試験結果を主とし、それにほぼ毎回小テストを行い出席状況を加味して判定する。

**【教科書】**

開講時に指示する。

**【参考文献】**

- 中村洋一『SNA統計入門』（日本経済新聞社）  
 武野秀樹・山下正毅編『国民経済計算の展開』（同文館）  
 桂昭政『福祉の国民経済計算－方法とシステム－』（法律文化社）  
 内閣府編『国民経済計算年報』（最新年版）

科 目 名			
<b>コスト・マネジメント</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	坂 手 恭 介

**【講義概要・学習目標】**

まず、コストマネジメント手法の全体像を把握し、個別手法の理解に進む。マネジメント手法は経営環境、企業組織、市場特性、財務体質などの影響を強く受けるので、これらに対する理解力が求められる。同時に、会計全般の基礎力も必要になるが、トピックごとに簡単な入門的解説を加えて講義を進める。

※受講者は「原価計算システム」の単位を取得しているか、同等の基礎力を有していることが求められる。

**【講義計画】**

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1) コストマネジメントの基礎知識  | (1週)  |
| 2) コストマネジメントと原価計算  | (2週)  |
| 3) 標準原価管理①         | (3週)  |
| 4) 標準原価管理②         | (4週)  |
| 5) 標準原価管理③         | (5週)  |
| 6) CVP分析とコストマネジメント | (6週)  |
| 7) CVP分析と利益計画      | (7週)  |
| 8) 原価改善            | (8週)  |
| 9) 原価企画            | (9週)  |
| 10) ライフサイクル・コストニング | (10週) |
| 11) 品質原価計算         | (11週) |
| 12) ABC・ABM        | (12週) |
| 13) 予算管理①          | (13週) |
| 14) 予算管理②          | (14週) |

**【成績評価の方法】**

期末テストと平常点により評価する。

**【教科書】**

使用しない。

科 目 名			
<b>コミュニケーション英文法</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	三 宅 亨

**【講義概要・学習目標】**

言葉を用いて聞き手や読み手に自分の伝えたい内容（意味）を表現するには、まず語彙を身につけることが必要である。しかし、いくら語彙が増えても、その使い方を知らなければ、日常会話の初歩的な決まり文句程度の片言の域を超えない。いくつかの語を適切につなぎ、正確に意味の伝わる文を作り出す能力（文法知識）が欠かせない。文は単に語が無秩序に並んだものではなく、一定のルールに従って組み立てられたものである。その構造を理解しなければ、文を読んだり、書いたり、聴いたり、話したりすることはできない。

この講義では、英語でのコミュニケーションをはかる際に求められる統語論を中心に、高校卒業までに身につけた基礎的な英文法知識を現実に使われている英語と比べて整理し直し、実際に英語が使えるようにするという実用面と、同時に伝統文法から最新の言語理論面への橋渡しを試みる。この科目は英語習得の基礎となるので1年次に履修することが望ましい。

**【講義計画】**

1. 文
2. 動詞と文型
3. 時制と相
4. 態
5. 語法
6. 助動詞
7. 法と条件文
8. 否定
9. 形容詞
10. 形容詞の型
11. 副詞類
12. 情報構造
13. 文の構成要素の移動

**【成績評価の方法】**

まず、出席を重視する。欠席・遅刻には厳しく対処する。正当な理由なくして6回以上欠席した学生には、それ以降の授業出席を認めない。

定期試験はもちろんのこと、日常の学習参加への熱意（participation）と小テストやレポートの成績などにに基づき、総合的に評価する。

**【教科書】**

毎回、handoutsを配布する。

**【参考文献】**

その都度指示する。

**【備考】**

<08L生>対象

<02~07生>は「英語表現文法」に読替

科 目 名			
<b>コミュニケーション概論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	金 本 伊津子

**【講義概要・学習目標】**

“We cannot not communicate!” 私たちは言葉を発していないときも、言葉ならざる言葉で間断なくコミュニケーションを行って他者（物）との関係性を構築する。私達のコミュニケーション行為をとおせば、満月の影は「ウサギの餅つき」となり、黒色と白色のコンビネーションは「死・喪」となり、「嫌いだ」という言葉も「好き」に変わるのである。

近年、人類はコミュニケーションの技術をすさまじく発達させ、国境や文化を越えて情報を発信・受信できる状況を作った。しかしながら、同時多発テロ事件、イラク戦争などの結果を振り返ると、人類のコミュニケーション能力は、一向に上達していないことがわかる。

この科目においては、コミュニケーションを解剖する過程の中から、自分のコミュニケーション行為を振り返り、個々のコミュニケーション能力を高めるための基礎固めをすることを目標とする

**【講義計画】**

年間の授業計画は以下のとおり。

- (1) コースの概要
- (2) 言語の獲得と発達過程（1）：言語使用の生物学的基盤
- (3) 言語の獲得と発達過程（2）：言語能力の生得性
- (4) 言語コミュニケーション（1）：言語の構造
- (5) 言語コミュニケーション（2）：言語と思考様式
- (6) 言語コミュニケーション（3）：言語と意味
- (7) 言語コミュニケーション（4）：言外の意味
- (8) 動物のコミュニケーション（1）：動物行動学
- (9) 動物のコミュニケーション（2）：人間のコミュニケーションの特徴
- (10) 非言語コミュニケーション（1）：ノンバーバル・コミュニケーションとは？
- (11) 非言語コミュニケーション（2）：ノンバーバル・コミュニケーションの生得性
- (12) 非言語コミュニケーション（3）：ノンバーバル・コミュニケーションの文化差
- (13) 非言語コミュニケーション（4）：ノンバーバル・コミュニケーションの応用
- (14) 中間テストにむけての総復習
- (15) 中間テスト
- (16) 中間テストの解説
- (17) メッセージの種類と分析
- (18) 広告のコミュニケーション
- (19) 広告の記号論的分析
- (20) 「うわさ話」という現象：都市伝説
- (21) メディアがもたらす「うわさ話」
- (22) メディア・コミュニケーション
- (23) 説得の技術（1）
- (24) 説得の技術（2）
- (25) インタビューの技法
- (26) 異文化コミュニケーション（1）：文化コンテクスト
- (27) 異文化コミュニケーション（2）：文化相対主義と自文化中心主義
- (28) 異文化コミュニケーション（3）：異文化イメージの作られ方
- (29) 学期末テストに向けての総復習
- (30) 学期末テスト

**【成績評価の方法】**

中間テスト 40%

学期末テスト 40%

出席 20%

**【教科書】**

橋元良明（編著）『コミュニケーション学への招待』大修館書店

**【参考文献】**

授業で紹介する。

科 目 名			
コミュニケーション論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	西 川 一 廉

**【講義概要・学習目標】**

人間は一人では生きてゆけない。複数の人が寄り合ってさまざまな集団、社会を構成し、その中で生きている。人間とはまさに「人と人の関係」の中に生きる存在である。そこで人と人をつなぐもの、それがコミュニケーションである。しかしコミュニケーションについて考えるには、他者より先に、まず自分が自分をどのように認知しているかが問題になる。その上で、他者との関係が浮上する。またコミュニケーションはことばに限らない。「目は口ほどにものをいい」などといわれるが、身振り、手振りから始まって顔面表情や視線など、いわゆるノンバーバル・コミュニケーションの方がよく用いられる。沈黙が語る場所は奥深い。さらに話すこともさることながら、聞くことの重要性を知らなければならぬ。

当講義では、個人、対人文脈、そして集団文脈でのコミュニケーションについて、心理学の立場から考える。したがって心理学的コミュニケーション論、あるいは社会心理学的コミュニケーション論である。

**【講義計画】**

日常の具体的な出来事を取り上げながら、また各種実習によって自己理解をはかりながら、ほぼ以下のようなテーマについて講じる。あくまでも心理学に軸足を置いたコミュニケーション論あるいは人間関係論である。

- 1～5回 コミュニケーションとは 人間活動としてのコミュニケーション
- 6～10回 知覚とコミュニケーション スピーキングとリスニング ノンバーバル・コミュニケーション
- 11～15回 対人文脈におけるコミュニケーション
- 16～20回 説得とコミュニケーション
- 21～25回 集団文脈におけるコミュニケーション
- 26～30回 ストレス・健康とコミュニケーション

**【成績評価の方法】**

成績評価は期末試験による。

**【教科書】**

西川一廉・小牧一裕『コミュニケーションプロセス』二瓶社

**【参考文献】**

随時、指示する。

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 20 21	春学期 秋学期 秋学期	2単位	道 上 真 有

**【講義概要・学習目標】**

この授業では、コンピュータを使ってできる基本的なことについて学びます。「インターネットを利用して情報を収集する」、「電子メールを使って連絡を取る」、「ワープロソフトや表計算ソフトを使ってレポートやレジュメを作成する」、「プレゼンテーションソフトを使って、勉強したことを発表する」ということができるようになることを目標としています。この4つの作業は、大学生活だけでなく就職した先の会社においても必須になる作業ですので、初心者からていねいにやさしく指導していきます。

これらの作業ができるようになると、自分がこれまで感じてきた世界観が大きく変わってきます。学期末には全員が基本レベルを習得でき、自分なりのレポートを作成する、遠く離れた友達や外国の友達とメールのやり取りをして連絡をとる、なかなか行けない外国についてインターネットで調べる、演習で研究発表する、などができる学生に成長していることが最終目標です。

**【講義計画】**

1. コンピュータの基本操作
2. インターネットの使い方
3. 電子メールの使い方
4. ワープロソフト、Wordの使い方
5. 表計算ソフト、Excelの使い方
6. プレゼンテーションソフト、Power Pointの使い方

**【成績評価の方法】**

出席、授業時の課題、期末レポートの3点で総合的に評価します。

**【教科書】**

桃山学院大学情報センター『ユーザーズガイド』  
その他、授業中にプリント配布、参考文献を紹介します。

か  
行

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2単位	田 村 剛
03	春学期		
04	春学期		
22	秋学期		
23	秋学期		
24	秋学期		

**【講義概要・学習目標】**

一昔前であれば、ビジネスなどにおいて、コンピュータを利用できる人間はある程度重宝されたものであるが、最近ではコンピュータの発達に伴い、利用できて当たり前であり、逆にできなければ困るという状況になってきている。

本講義では、コンピュータをほとんど使った経験のない初心者を対象として、コンピュータの基礎を身につけるために、インターネット、電子メール、ワード、エクセル、パワーポイントなどの基本操作について学習する。

**【講義計画】**

1. コンピューターの基礎知識
2. コンピューターの基本操作とキーボード練習
3. インターネットによる情報検索
4. 電子メールの利用
5. ワードプロソフト (Word) の基本操作 (文章作成・編集など)
6. 表計算ソフト (Excel) の基本操作 (データ入力・分析方法など)
7. プレゼンテーションソフト (Power Point) の基本操作

**【成績評価の方法】**

出席状況、課題やレポートの出来具合等を考慮して総合的に評価する。

**【教科書】**

桃山学院大学情報センター編『ユーザーズガイド』

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	春学期	2単位	小 林 利 臣
06	春学期		
25	秋学期		
26	秋学期		

**【講義概要・学習目標】**

大学においては、卒業論文を書くにも、講義のレポートを作成するにも、コンピュータの利用が不可欠である。図書館をうまく利用しなければ効果的な学習ができないのと同様に、コンピュータをうまく使いこなせないと実のある大学生活を送ることができない。

就職後も企業においては、新入社員はコンピュータは使えると想定している。

未来の社会は（現在も既に）情報化社会であり、コンピュータを使えないと生活にも障害が出てくる。

本講義では、これらの「基礎（情報リテラシと呼ぶ）を形成」すべく講義（座学）に加えて、インターネットの閲覧・電子メールの送受信・表計算・文書作成などができるよう実習も行う。「講義と実習の比率＝50：50」を予定しています（もっと実習が多い方がよいという人は、他の講座か、町のPCショップでお願いします）。

IT（ツール）の実習も総花的でなく、重要Point中心に進めます。

**【講義計画】**

1. Windowsの基礎、日本語入力 (IME)
2. Windowsのファイルシステム
3. Internetの仕組み、WWWを閲覧する
4. 電子メールの仕組み、Webメールで送受信する
5. ネットワーク、メールを転送する
6. 表計算 (Excel) の基本的な事項、集計表を作成する
7. Excelで複数表・グラフを作成する
8. Excelでデータベースを作成する
9. 文書作成 (Word) の基本的な事項、レポートを作成する
10. Wordで大きな文書を作成する
11. プレゼンテーション (PowerPoint) の基本的な事項
12. 総合演習

**【成績評価の方法】**

講義時の課題レポート、および期末試験で、評価する。

**【教科書】**

桃山学院大学情報センター編：ユーザーズガイド

**【参考文献】**

特になし。

**【備考】**

キーボードによる文字入力練習などは、時間外に自習室で行っていただきます。



科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	春学期	2単位	武 本 和 広
08	春学期		
09	春学期		
27	秋学期		
28	秋学期		
29	秋学期		

**【講義概要・学習目標】**

近年のインターネットの普及と、Windows搭載コンピュータの低価格化は著しい物があります。このため、情報の検索・取得、加工・保存、提示・発信を目的とした、道具としてのコンピュータ利用が必要不可欠となっています。この講義では、「これまでコンピュータを利用した経験のほとんど無い」学生さんを対象に、上記のために「最低限必要な」知識とスキルを取得する事を目指します。

具体的には、コンピュータの構成とその基礎的操作を理解し、インターネットを通じた情報の取得、電子メールの送受信、取得した情報の処理と可視化、講義レポートの作成など第三者へ提示する為の情報の加工を、身につける事を目標とします。これらのための道具である、Webブラウザ、検索エンジン、電子メール、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトの扱い方を知って貰います。

なお、この授業は「これまでコンピュータを利用した経験のほとんど無い」学生を対象としています。ある程度コンピュータ利用に長けた学生さんにとっては、退屈極まる物になるかと思いませんのでご遠慮ください。

**【講義計画】**

- ・コンピュータの構成と基礎的な操作
- ・インターネットとの付き合い方
- ・電子メールを使った情報の送受信
- ・WWWを閲覧する
- ・MS-Wordを使った文書作成の基礎
- ・MS-Excelを使った図表作成・表計算の基礎
- ・MS-PowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基礎

(必ずしもこの順序に従うとは限らない)

**【成績評価の方法】**

- ・出席を重視した、数回の課題もしくはレポートによる総合評価

**【教科書】**

- ・桃山学院大学情報センター（編）「ユーザーズガイド」（2008年度版）

**【参考文献】**

- ・適宜、授業中に紹介する

**【備考】**

- ・コンピュータ利用の初心者・未経験者を対象としていますので、初心者以上の方の受講は、ご遠慮ください。

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
10	春学期	2単位	加 島 智 子
11	春学期		
12	春学期		
30	秋学期		
31	秋学期		
32	秋学期		

**【講義概要・学習目標】**

本講義では、日常生活でコンピュータやインターネットを利用して課題を解決するための基礎的な知識や技能を学ぶ。単に文字入力や基本的な操作方法、データや情報の処理方法を学ぶだけではなく、コンピュータの基礎的な動作原理や特性、適用場面の理解を深めた上で、目的に応じて使いこなすことを目的とする。

タイピング、文書作成、表計算やグラフ作成、プレゼンテーション、インターネット、メールを用いたコミュニケーションと情報収集・発信、コンピュータ社会に関わる諸問題など幅広く学ぶ。

**【講義計画】**

- 1: ガイダンス
  - 2: Windowsの基本操作、文字入力
  - 3: ファイルの管理
  - 4: メール、インターネット（情報検索）
  - 5: エクセル（基本操作）
  - 6: エクセル 関数の利用（合計、平均、条件）
  - 7: エクセル 関数の利用（ランク、最大、最小、絶対参照など）
  - 8: エクセル 並び替え、グラフ、オートフィルタ、練習
  - 9: ワード（基本操作）
  - 10: ワード タイピングテスト、案内文作成
  - 11: ワード ビジネス文章作成
  - 12: パワーポイント（基本操作）
  - 13: パワーポイント 練習
  - 14: まとめ
- 最終課題

**【成績評価の方法】**

出席状況・授業時の演習と各回の課題・期末課題など

**【教科書】**

桃山学院大学情報センター ユーザーズガイド2008

**【参考文献】**

村井 純（著）、インターネット、単行本、岩波新書（1995/12）。  
 エクスメディア（著）、超図解mini Word基本操作&テクニック、単行本、エクスメディア（2005/6/15）。  
 エクスメディア（著）、超図解mini Excel基本操作&テクニック、単行本、エクスメディア（2006/4/5）。

**【備考】**

この授業は大学入学までコンピュータを利用する機会が殆どなかった初心者の学生を対象としています。コンピュータの基本操作をある程度心得ている学生にとっては、授業は退屈だけで得るものはないかもしれません。したがって、経験者はなるべく履修を避けて他の授業を受講してください。

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
13	春学期	2単位	竹 岡 志 朗
14	春学期		
15	春学期		
33	秋学期		
34	秋学期		
35	秋学期		

**【講義概要・学習目標】**

現在、職場から日常生活、そして趣味や娯楽の場面まで、至る所でPCが利用されている。そしてPCの利用場面が拡張するにしたがって、そのスキルは必須のものとなってきた。本講では、オフィスアプリケーションに慣れ、中級レベルのスキルを身につけることを目的とする。

**【講義計画】**

- 1 講義概要
- 2 インターネットとEメール
- 3 Wordの基本
- 4 Wordの基本2
- 5 Wordの基本3
- 6 Excelの基本
- 7 Excelの基本2
- 8 Excelの基本3
- 9 Power Pointの基本
- 10 Power Pointの基本2
- 11 Power Pointの基本3

**【成績評価の方法】**

出席率、宿題の提出率、試験やレポートの成績、受講態度などによって総合的に評価する。

**【教科書】**

桃山学院 ユーザーズガイド

**【参考文献】**

コンピュータを使わない情報教育 アンブラグドコンピュータサイエンス  
Bell, t. 著 兼宗 進 監訳  
イーテキスト研究所

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
16	春学期	2単位	初 瀬 慎 一
17	春学期		
18	春学期		
19	春学期		
36	秋学期		
37	秋学期		

**【講義概要・学習目標】**

情報化社会は非常に速いテンポで進化し、われわれの生活にさまざまな影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化とインターネットの著しい発展に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会において基礎的な技能として要求されている。

授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的とし、パソコン実習を通じ、オフィスにおける必須ツールである表計算やワープロ、プレゼンテーション、インターネットの利用等を学習する。

**【講義計画】**

1. パーソナルコンピュータの概要
2. コンピュータの基本操作
3. インターネットの活用とセキュリティ
4. 電子メールとネチケット
5. オフィスツール（表計算、ワープロ、プレゼンテーション）の活用
6. その他の情報活用法

**【成績評価の方法】**

提出課題の評価を中心に、試験との総合評価を行う。出席は授業日数の3分の2以上であること。

**【教科書】**

開講時に指示する。

**【参考文献】**

桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』

科 目 名			
コンピュータ利用Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
38	8月集中	2単位	北 條 仁 志

**【講義概要・学習目標】**

コンピュータの発達に伴い、インターネットや電子メールによる情報伝達、ワープロによる文書作成、数値計算、情報管理等、様々な目的に応じてコンピュータを利用する機会が増え、コンピュータの簡単な操作方法を理解することが必要不可欠な時代となった。

本講義では、コンピュータの利用経験が少ない初心者を対象として、コンピュータの基礎的概念およびその操作方法について学習する。それらを身近な道具として利用し、インターネット上の様々な情報を活用できるための知識およびスキルを習得することを目標とする。

**【講義計画】**

以下の項目について講義・実習を行う。

1. コンピュータの基礎概念
2. コンピュータの操作方法
3. インターネット（電子メール、WWW）の活用
4. コンピュータリテラシー
5. ワープロ（Word）による文書作成
6. 表計算ソフト（Excel）の基本的操作
7. プレゼンテーションソフト（Power Point）の基本的操作

**【成績評価の方法】**

講義時の課題および出席状況により総合的に評価する。

**【教科書】**

桃山学院大学情報センター編『ユーザーズガイド』

**【参考文献】**

よくわかるマスター IC3対策テキスト FOM出版

科 目 名			
コンピュータ利用Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	初 瀬 慎 一

**【講義概要・学習目標】**

本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。単純に現在何ができるかを伝授するだけでなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察も行う。

履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい：

- ・情報センターの施設を用いた講義と実習が主体となる。
- ・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。コンピュータにある程度慣れていないとハードな講義となる。
- ・少なくとも自習課題を課す予定である。ある程度コンピュータに慣れているものに面白く感じられるような課題にする予定であるが、言い換えると初心者にはしんどい課題の連続となることも意味する。
- ・基本的には連絡は電子メールで行う。

**【講義計画】**

- ・具体的な計画は下欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもありうる。
- ・ホームページを作ってみる。
- ・プレゼンテーション・ソフト
- ・情報検索の基礎
- ・unix（Linux）の基礎
- ・オブジェクト指向とJava

**【成績評価の方法】**

実習の提出物を中心に総合的に評価する。出席は授業日数の3分の2以上であること。

**【教科書】**

講義計画執筆時（2007年12月）現在検討中である。

**【参考文献】**

ユニバーサルHTML/XHTML、神崎正英著、毎日コミュニケーションズ  
10日でおぼえるJava入門教室 第二版、丸の内とら著、翔泳社

改訂新版 初体験Java 丸の内とら著 技術評論社

**【備考】**

テキストの件も含め、適宜担当者の教材フォルダ（s:shatus）で情報公開を行う。

科 目 名			
<b>コンピュータ論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	藤 間 真

**【講義概要・学習目標】**

今日のコンピュータは、「計算」を直接的に目的とはしない用途でますます利用されており、計算する道具からデータ処理の道具、そして情報を引き出し整理し分析した上でその結果を分かりやすく提示する道具になりつつある。何故コンピュータは今日のような展開ができたのであろうか。このことをコンピュータの発達の歴史、ハードウェア装置の構成と仕組み、そしてソフトウェアの現状と可能性を理解することで、明らかにし、より社会生活に役立つコンピュータの将来をどのように展望すべきかを考える。

**【講義計画】**

第一回にオリエンテーションを行います。また、第27回以降はそうまとめを予定しています。

その間に

- ・社会におけるコンピュータ
- ・コンピュータの発達の歴史
- ・ハードウェア装置の構成と仕組み
- ・ソフトウェアの構成と仕組み

について扱います。受講生の理解度を頻繁にはかりその結果に応じて各内容の難易度と進度を調整します。

なお、高校での教科『情報』の教育が多様化していることを受け、受講生の理解度を頻繁に測り、内容及び進度の調整を行います。

**【成績評価の方法】**

頻繁に課題提出を課しますが、それらの主な目的は理解度確認です。成績評価は学期末レポートの成績を中心に評価します。

詳細はオリエンテーション時に説明します。

**【教科書】**

指定しません。

**【参考文献】**

講義の進行に応じて適宜指示します。

科 目 名			
<b>財政学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	竹 原 憲 雄

**【講義概要・学習目標】**

いま日本の財政が注目されている。

先進国のなかで、日本の財政赤字は最悪の状態にある。そのために所得税・消費税等の増税が準備されている。

同時に、高齢化社会に向けた福祉や年金、経済成長のための減税など財政の多様な機能が求められている。また経済格差、地方分権や財政の国際化にも直面している。これは現代財政に共通するところであるが、それによって日本の財政は、私達の日常生活や民間の経済活動にいつそう深い関わりをもつようになっていく。

もともと、こうした日本の財政が、単なる興味の対象に終わってしまうならば、その正体は分からない。財政のしくみや経済活動との関係などについて、順序だてて考えてみる必要がある。

そのうえで、2008年度予算を手がかりにしながら、現在の財政がかかえる問題、国民生活への影響、そしてのぞましい姿など日本財政の実体と迫ってみようというのが、この講義のねらいである。

財政という窓からもう一度世の中を見つめ直して、これからの21世紀を展望してもらいたい。

**【講義計画】**

第1回：ガイダンス

1. 2008年度予算の内容と問題点

第2回：予算の意義と予算制度 1

第3回：予算の意義と予算制度 2

第4回：2008年度予算の政治経済環境・内容・特質 1

第5回：2008年度予算の政治経済環境・内容・特質 2

第6回：財政赤字の問題点と欧米諸国の財政再建策

2. 現代財政の理論と機能

第7回：財政の意義と規模

第8回：現代財政の機能と問題点 1

第9回：現代財政の機能と問題点 2

第10回：現代の財政理論の概要と問題点 1

第11回：現代の財政理論の概要と問題点 2

3. 日本財政の経費構造と主要経費の実態

第12回：経費膨張の解釈

第13回：経費の経済効果

第14回：日本財政の経費の内容と推移 1

第15回：日本財政の経費の内容と推移 2

第16回：社会保障費と年金制度 1

第17回：社会保障費と年金制度 2

第18回：公共事業費の実態

第19回：経済協力費とODAの意義・現状

4. 税金の意義としくみ

第20回：税金の特質・根拠・負担 1

第21回：税金の特質・根拠・負担 2

第22回：所得税のしくみと問題点

第23回：消費税の特質・課題・改革構想

5. 国債の現状と課題

第24回：国債の意義・発行・消化と減債制度 1

第25回：国債の意義・発行・消化と減債制度 2

第26回：国債の膨張と問題点

6. 財政投融资の機能と新たな展開

第27回：財政投融资の特質・構造・運用

第28回：財政投融资改革の評価

(以上の講義内容については、新たなテーマを加えるなど必要に応じて変更する場合があります)

**【成績評価の方法】**

学期末の試験 (75点)、

講義内容に関するレポートおよび出席状況 (25点) の予定。

**【教科書】**

使用しない。

**【参考文献】**

講義の中で紹介する。

科 目 名			
<b>財務諸表論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	全 在 紋

**【講義概要・学習目標】**

講義概要：企業はその社会的性格のゆえに、自己の財政状態および経営成績を世間に公表する責任をもっている。貸借対照表や損益計算書をはじめとする財務諸表は、そのために作成される。この講義を真剣に受講すれば、企業が作成するところの財務諸表の意味を「読み解く」力が養われる。

学習目標：① 1年次における商業簿記の学習内容を前提として、3年次以降に履修する経営学部専門諸科目の内容が理解できるよう、財務会計における損益計算書・貸借対照表のポイントを理解する。  
② 「企業の言語」としての（会計）の特性を理解する。

**【講義計画】**

- ① 制度会計論
- ② 貸借対照表論
- ③ 損益計算書論
- ④ キャッシュ・フロー計算書論
- ⑤ 安全性分析
- ⑥ 収益性分析
- ⑦ 成長性分析
- ⑧ 会計言語論
- ⑨ 国際会計論

**【成績評価の方法】**

原則として、学期中間試験と学期末試験との総合点で評価する。また、学期中にレポートを課した場合、充実した内容の提出者には加点評価する。なお、日本商工会議所簿記検定試験2級・1級合格者にも、別途加点評価する。

**【教科書】**

全在紋作成のオリジナル・テキスト配布（分売）の予定

**【参考文献】**

全在紋著、『会計言語論の基礎』、中央経済社、2004年

**【備考】**

この授業は、正当な理由（電車の延着その他）がない場合、開始10分以降の入室を禁ずる。

科 目 名			
<b>産業考古学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	辻 洋一郎

**【講義概要・学習目標】**

産業考古学は、産業の歴史のなかで生まれ、活用され、そして消費されていった生産財・消費財を、歴史、文化、経済、地理などの各分野の観点から調べ・考えることでその思想を知る学問です。すなわち、既存の学問（産業史、技術史、経済史など）の方法論に準拠して展開される学際的な分野といえます。また、消えてゆきつつある産業遺産をどのように選別・収集・保存・活用するか、という実務的な問題も重要な論点で、博物館学の方法論や知識を駆使する必要があります。

今年度の講義では、前半で産業考古学の目的と現状を解説した後、産業考古学を理解するために必要不可欠な周辺の学問分野を概観します。後半では、産業遺産保護の現状と問題点に焦点を当てて解説します。

**【講義計画】**

※進捗と理解度を勘案して、期中で内容を変更する場合があります。

（以下順不同）

- (01) 産業考古学の目的と定義
  - (02) 産業発展の歴史－明治期以前
  - (03) 産業発展の歴史－明治期
  - (04) 産業発展の歴史－大正～昭和
  - (05) 産業構造と産業の進歩
  - (06) 技術進歩と産業の発展
  - (07) 産業遺産の俯瞰－その1
  - (08) 産業遺産の俯瞰－その2
  - (09) 産業遺産の俯瞰－その3
  - (10) 産業遺産の俯瞰－その4
  - (11) 産業遺産の俯瞰－その5
  - (12) 産業遺産の俯瞰－その6
  - (13) 産業遺産の俯瞰－その7
  - (14) 中間まとめ
  - (15) 産業遺産の俯瞰－その8
  - (16) 産業遺産の俯瞰－その9
  - (17) 産業遺産の俯瞰－その10
  - (18) 産業遺産の俯瞰－その11
  - (19) 産業遺産の俯瞰－その12
  - (20) 産業遺産の俯瞰－その13
  - (21) 産業遺産保護の目的と現状
  - (22) 周辺学問分野の概要
  - (23) 周辺学問分野と産業考古学のかかわり
  - (24) 日本の産業遺産保護の現状－その1
  - (25) 日本の産業遺産保護の現状－その2
  - (26) 産業考古学の将来と問題点
  - (27) 各国の産業遺産保護の現状
  - (28) まとめ
- （順不同）

**【成績評価の方法】**

出席状況とレポート（合計3回程度）の評価で決定する。詳細は初回の講義時に説明する。

**【教科書】**

講義中に適宜指示する。

**【参考文献】**

講義中に適宜指示する。

科 目 名			
<b>産業構造論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	義 永 忠 一

**【講義概要・学習目標】**

現代日本の産業をいくつかのテーマに沿って、各産業分野の「現場」で活躍されている経営者やそれに近い方々、もしくは「現場」に関して造詣の深い方々から講義をしていただきます。これらの講義を通して見えてくる各産業の現状と課題を理解し、その方向性を考え始めるきっかけとなることを、学習の目標とします。

2008年度は、春期「産業構造の変化と大阪経済の現状」、秋期「グローバル化と産業構造の変化」というテーマで、各産業の視点より講義をしていただきます。

**【講義計画】**

2007年度 講義実施内容（2008年度に変更の可能性あり）

産業構造の変化と大阪経済の現状（春期）

- ・ 総論
- ・ 大阪市における公共交通の位置付け（2回）
- ・ 環境問題と交通
- ・ 関西における「食」文化（2回）
- ・ ホテル・観光業の現状
- ・ 関西におけるホテル・観光業
- ・ 関西における外食産業の現状
- ・ シンクタンク・ビジネス
- ・ 公設試験研究機関の役割
- ・ まとめ

グローバル化と産業構造の変化（秋期）

- ・ エネルギー自由化（電力）
- ・ エネルギー自由化（ガス）
- ・ 地域産業政策と産業集積
- ・ 知的財産権
- ・ 自動車産業の現状
- ・ 日本における貿易の現状
- ・ 繊維産業の現状
- ・ 情報産業
- ・ 金型産業の現状と課題
- ・ 環境に対する視点
- ・ サブカルチャー（食玩市場の変遷）と産業構造の変化
- ・ まとめ

**【成績評価の方法】**

春・秋期をそれぞれ数期に分け、各期最低1つ、各講師が出題したテーマについてレポートを作成してもらおう。それらを総合して評価する。

**【教科書】**

指定しません。

**【参考文献】**

その都度指示します。

**【備考】**

インテグレーション科目

科 目 名			
<b>産業社会学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	上 田 修

**【講義概要・学習目標】**

私たちの暮らしを支える経済社会、なかでもその中心に位置する雇用のあり方は、近年、大きく変化しています。それを象徴するのが、成果主義の導入、雇用の多様化、さらにはグローバルスタンダードにもとづく企業統治の再編です。この授業では、講義内容を大きく企業と社会をめぐる問題というように大きく2つのパートに分け、それぞれの問題について考えます。最初のパートでは、まず①企業というものを組織という視点から捉え、次いで②企業活動の基底にある労働の管理、モチベーションといった労働をめぐるミクロの問題がこれまでどのように処理、理解されてきたのかを取りあげ、それをふまえた上で、③日本企業における人々の働き方、管理の特徴を学びます。2つ目のパートでは、視点を社会へと大きく広げ、産業社会の問題として④競争、平等、格差をキーワードとして、日本社会が抱える問題を考察し、最後に⑤働く者の権利擁護に関して労働組合を取りあげます。

**【講義計画】**

- 第1回 はじめに 授業計画と課題について
- 第2回 企業とは何か
- 第3回 日本企業の諸相
- 第4回 日本企業の組織的特徴
- 第5回 管理論の史的形成
- 第6回 自己実現的人間観と行動科学
- 第7回 リーダーシップ
- 第8回 戦前型年功制度の形成
- 第9回 戦後型年功制とその修正
- 第10回 職能資格制度
- 第11回 成果主義（1）
- 第12回 成果主義（2）
- 第13回 日本的生産システムとチーム労働（1）
- 第14回 日本的生産システムとチーム労働（2）
- 第15回 過度労働と長時間労働
- 第16回 過労死問題
- 第17回 競争社会の断面（1） 理論的検討
- 第18回 競争社会の断面（2） 日本企業の競争構造
- 第19回 階級論と階層論 SSM調査を中心として
- 第20回 平等社会日本とその変容
- 第21回 非正規雇用の増大と若者の受難（1）
- 第22回 非正規雇用の増大と若者の受難（2）
- 第23回 働く女性の増大と格差問題（1）
- 第24回 働く女性の増大と格差問題（2）
- 第25回 日本の労働組合の特徴
- 第26回 日本の現状と労使関係の将来
- 第27回 雇用の変容と働く者の将来
- 第28回 まとめ

**【成績評価の方法】**

成績は、学期末テスト（80%）、出席および授業時に課すレポート（20%）で評価します

**【教科書】**

使用しません。ただし、講義内容の概略（レジュメ）を配布します。

**【参考文献】**

講義概要（レジュメ）にて指示します。

科 目 名			
<b>産業心理学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	西 川 一 廉

**【講義概要・学習目標】**

バブル経済崩壊後、産業社会、特に働く人々にとっての職場環境は大きく変わった。それは景気回復傾向にあるといわれる今日においても、なお変わりが無い。多様化した就業形態などは氷山の一角にすぎない。そこで働く人々は何を目的に働くのか。何を喜びとして働くのか。好むと好まざるとにかかわらず、勤労者の生活は職場（会社）を中心に営まれる。しかしそこで起こるさまざまな出来事は、働く人々とその家族に大きく影響する。ソフト化・サービス化、情報化、コンピュータ化、共働き化、高齢化など激変する産業社会の中での仕事、職場の人間関係、技術革新と能力開発、人事制度と処遇、労働時間、パートタイマーやフリーターあるいは派遣労働者などのいわゆる非正規雇用、職場のストレスとメンタルヘルス等々、職場生活は多様な問題を抱えているのか。人はこうした会社組織の中でどのように生きようとしているのか。さらに女性の労働力化が進む中で、仕事と家族のバランスはどのようにとられるのか。高齢化が進む中で、職場環境はどのように改善されなければならないのか。法的整備だけで事足りるのか。心の問題はそれほど簡単ではない。当講義では、このようにダイナミックに変化する労働環境と、そこで働く人々について、心理学の立場から考える。

**【講義計画】**

いわゆる産業・組織心理学的諸問題について、各種調査結果や今日的出来事を例示しながら、ほぼ以下のようなテーマについて講じる。

- 1～5回 産業心理学とは 産業心理学の誕生
- 6～10回 勤労者の生きがい・働きがい 労働時間構造の変化と労働意識
- 11～15回 女性労働・家族・企業社会 勤労者のライフスタイル 働く意欲と職務満足
- 16～20回 人事管理と能力開発 キャリア発達
- 21～25回 職場の中での人間関係 リーダーシップ
- 26～30回 産業ストレスとメンタルヘルス コンピュータ化

**【成績評価の方法】**

成績評価は期末試験による。

**【教科書】**

NIP研究会（編）『仕事とライフスタイルの心理学』福村出版

**【参考文献】**

随時、指示する。

科 目 名			
<b>産業組織論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	田 中 悟

**【講義概要・学習目標】**

産業組織論の基礎的な理論の概説を通じて、企業間の競争形態が産業や経済に与える効果について考える。本講義では、ミクロ経済理論を応用することによって、企業間の競争形態や相互依存関係がいかに企業行動に影響を与え、これを通じて経済の成果（パフォーマンス）がどのように左右されるかを検討する。さらに、現実の産業組織構造の実態やそれに対して行われる公共政策（産業政策・規制政策・競争政策等）についての紹介を行い、産業の経済学についての理解を深める。

**【講義計画】**

講義はおおむね下記の章別構成にしたがって行う予定である。

- 序 産業組織論の対象と課題
- 第1章 市場競争の諸形態
- 第2章 企業の組織構造と企業戦略：M&Aの経済理論
- 第3章 独占企業の戦略：価格戦略と非価格戦略
- 第4章 寡占市場における競争と協調
- 第5章 企業の戦略的行動とその効果
- 第6章 イノベーションと産業組織
- 第7章 グローバル化と産業組織
- 第8章 産業をめぐる公共政策の課題と内容

**【成績評価の方法】**

授業中に課す数回の小テストないしは宿題（30%）と定期試験の結果（70%）を総合して評価する。

**【教科書】**

土井教之・小林千春・村上礼子・田中悟 産業組織論入門 ミネルヴァ書房

**【参考文献】**

1. 長岡貞男・平尾由紀子（1998）『産業組織の経済学』（日本評論社）
2. 浅羽茂（2004）『経営戦略の経済学』（日本評論社）
3. 丸山雅祥（2005）『経営の経済学』（有斐閣）
4. 柳川隆・川濱昇編（2006）『競争の戦略と政策』（有斐閣）
5. 植草益他編（2002）『現代産業組織論』（NTT出版）
6. 後藤晃・鈴木興太郎（1999）『日本の競争政策』（東京大学出版会）
7. Cabral, L. M. B. (2000), Introduction to Industrial Organization, MIT Press.

さ  
行

科 目 名			
自然科学－基礎数学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	村 山 博

**【講義概要・学習目標】**

本講義は、社会人として必要な数学の基礎の習得を目的とする。文系大学生のための基礎数学というべき内容を目指したい。まず、練習問題を行い、受講者の高等学校までに学んだ数学の実力を測定し、それに合わせて講義内容を決定していきたい。高等学校までの数学の復習も含めて行う予定である。

**【講義計画】**

毎回、問題プリントを配布し、受講者に解答をしてもらい、その後、模範解答を説明する方式で講義を進める。

受講者の数が少なければ、解答の仕方やヒントなどの個人指導も行いたい。

出題問題は中学や高校までですでに勉強した基礎的な数学とし、高度な問題は出題しない。

ただし、受講者の数学の実力により、問題の難易度や内容は変化することがある。

以下の内容を講義する予定であるが、進捗や受講者に応じて変化する。

1. 高等学校までの数学の復習
2. 集合
3. 論理
4. N進数

**【成績評価の方法】**

期末試験により判断して評価する。ただし、受講者からの希望が多ければ、中間試験を行う可能性がある。

**【教科書】**

特になし。

**【参考文献】**

その都度指示する。

科 目 名			
自然科学－生物学 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	巖 圭 介

**【講義概要・学習目標】**

バイオテクノロジーの台頭と環境問題への注目により、生物学は21世紀の社会でよくも悪くも中心的な位置を占めることになる。遺伝子や生態系に関する正しい理解がなければ、さまざまな社会問題に正しく対応し判断をくだすことは難しい。この時代に対応するためにも、生物というものの基本を正しく理解しておいてほしい。

生物の基本、それはすべての生物が37億年にわたる生命の進化の産物であるということ。進化という現象を抜きにして生物のいかなる側面も語ることはできない。にもかかわらず、現在の高校までの理科教育では進化をまともに扱うことがなく、結果として進化を正しく理解している者はきわめて少ない。

この授業では、進化とそのメカニズムの正しい理解を目標とする。その上で、進化を軸にして生命現象のいくつかの重要な側面について概説する。

**【講義計画】**

ときおり時事問題なども絡めながら、おおむね以下のテーマを扱う予定

- ・なぜ地球に生物がいるのか
- ・なぜ生物は進化するのか
- ・なぜ性があるのか
- ・なぜ利他的にふるまえるのか
- ・なぜ滅びゆく生物を守るのか

**【成績評価の方法】**

テーマの区切りごとに課すイン・クラス・レポート（授業時間中に書く短いレポート）や小テスト、および期末試験により判定する（詳細は初回講義にて説明）

**【教科書】**

なし

**【参考文献】**

- 酒井聡樹ほか『生き物の進化ゲーム』共立出版 1999年  
 桑村哲生『生命の意味』裳華房 2001年  
 長谷川眞理子『進化とはなんだろうか』岩波ジュニア新書 1999年  
 ワイナー『フィンチの嘴』早川書房 2001年  
 長谷川眞理子『クジャクの雄はなぜ美しい?』紀伊國屋書店 1992年  
 ドーキンス『利己的な遺伝子』紀伊國屋書店 1991年



科 目 名			
<b>思想－旧約聖書を読む</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	滝澤 武人

**【講義概要・学習目標】**

キリスト教の正典である『聖書』は、「旧約聖書」と「新約聖書」からなっています。旧約聖書には古代ユダヤ民族の1000年間にわたるさまざまな時代に書かれた、歴史・宗教・思想・文学などの39巻の文書が含まれています。それはユダヤ教・キリスト教・イスラム教の「聖書」であると同時に、現代においても人類全体の重要な知的遺産であり、世界の古典中の古典なのです。

旧約聖書に親しみできるだけ多く「読む」こと、それがこの講義の概要であり目標です。そこにはさまざまな「人間」のさまざまな「生きかた」が見いだされるでしょう。もちろん、「信仰」の有無などにはまったく関係なく、誰でも受講することができます。「世界の市民」の教養として、ぜひ旧約聖書にチャレンジしてほしいと思います。熱心で真面目な学生諸君のねばり強い主体的な受講を期待しています。

**【講義計画】**

1. 旧約聖書とは？
2. 天地創造物語
3. エデンの園の物語
4. カインとアベル
5. ノアの箱船
6. バベルの塔
7. ビデオ (1)
8. アブラハム (1)
9.     "      (2)
10. イサク
11. ヤコブ (1)
12.     "      (2)
13. ヨセフ (1)
14.     "      (2)
15. モーセ (1)
16.     "      (2)
17.     "      (3)
18. ダビデ (1)
19.     "      (2)
20. ビデオ (2)
21. 預言者 (1)
22.     "      (2)
23.     "      (3)
24. 文学 (1)
25.     "      (2)
26.     "      (3)
27.     "      (4)
28.     "      (5)
29. 試験

**【成績評価の方法】**

試験 (85点) とレポート (3回、15点)。

**【教科書】**

新共同訳 聖書 日本聖書協会

旧約聖書のテキストを自分自身で「読む」ことがこの講義の目標ですので、受講する学生諸君は必ず購入して、毎時間必ず持参してください。(3400円もする高価な本ですが、大学生としてぜひ持っておくべき本でしょう。)'新共同訳'以外のものでも結構です。

**【参考文献】**

AERA Mook『旧約聖書がわかる。』朝日新聞社  
阿刀田 高『旧約聖書を知っていますか』新潮文庫

科 目 名			
<b>思想－中国思想から今を読む</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	串田 久治

**【講義概要・学習目標】**

中国の古代の諸思想を通して、今を読み解く講義です。中国の古代思想は広く東アジアに根を下ろし、人々の物の見方や考え方を形成する上で大きな影響を与えました。そして、その多くが書物となって今に伝えられています。

本講義は、中国の知的遺産を解きほぐしながら、今日の我々が抱えるさまざまな問題を見つめ、現実の世界に目を開いて考え直し、一人ひとりの思考を深化させる場とします。

したがって、本講義はただ聞いているだけの講義ではなく、学生諸君の積極的なアプローチと深い思索が要求されます。具体的には、数名ごとのグループに分かれ、グループで討議したことを発表し、全員でディスカッションし、その後各自が自分の考えをまとめてレポートして提出することとなります。

**【講義計画】**

第一部 発想の転換

1. 不満と満足
2. バランス感覚
3. 無用と有用

第二部 真実を見抜く

1. プロフェッショナルとは何か？
2. 法治国家とは何か？
3. 銅臭とは何か？

第三部 国家の責務

1. 政治家の条件
2. 天災
3. 棄民

第四部 平和への希求

1. テロリスト群像
2. 戦争請負業
3. イソップ「戦争と傲慢」

第五部 人間の魅力

1. 飲酒のススメ
2. 昼寝のススメ
3. 軟弱のススメ

**【成績評価の方法】**

本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失います。

**【教科書】**

未定

**【参考文献】**

林語堂著『支那のユーモア』(岩波新書)  
林語堂著『中国＝文化と思想』(講談社学術文庫)  
宮崎市定著『中国に学ぶ』(中公文庫)  
串田久治著『儒教の知恵－矛盾の中に生きる』(中公新書)  
串田久治著『中国古代の「謠」と「予言」』(創文社)  
串田久治著『天安門落書』(講談社現代新書)  
KUSHIDA'S WEB SITE

<http://www1.odn.ne.jp/kushida>

さ  
行

科 目 名			
<b>視聴覚教育</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	冷 水 啓 子

**【講義概要・学習目標】**

- ・テーマ：視聴覚教育及び視聴覚教育メディアの教育利用について
- ・授業の到達目標：視聴覚教育及び視聴覚教育メディアについての理解を深めたうえで、視聴覚メディアを活用した教育実践を概観する。さらに、コンピュータ実習やプレゼンテーション作品の制作を通じて、情報を適切に理解し、利用し、産出する能力やスキル（マルチメディア・リテラシー、情報活用能力、情報倫理など）の習得をめざす。
- ・授業の概要：この授業では、「視聴覚教育とメディア」に焦点を絞り、視聴覚教育メディアの発展と特徴、それらを活用した学習支援の方法を検討する。さらに、それらの利用に際する問題点及びその教育的可能性と限界について考察を行う。具体的には、はじめに講義中心の授業を行い、つぎにコンピュータ実習（インターネット利用及びパワーポイントによるプレゼンテーション作品の企画・制作）を行う。

**【講義計画】**

- 第1回：授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて）
- 第2回：視聴覚教育及び視聴覚教育メディアとは何か
- 第3回：視聴覚教育及び視聴覚教育メディアの変遷
- 第4回：活字・印刷物の利用（1）—教科書・絵本・児童書の特徴
- 第5回：活字・印刷物の利用（2）—マンガの特徴と挿絵の効果
- 第6回：活字・印刷物の利用（3）—新聞とNIE
- 第7回：テレビとビデオの利用（1）—その利用形態と社会・教育的影響
- 第8回：テレビとビデオの利用（2）—幼児教育番組
- 第9回：テレビとビデオの利用（3）—字幕や手話通訳つき番組と文字情報保障
- 第10回：コンピュータ・ゲームの利用—子どもの発達と学習への影響
- 第11回：コンピュータの教育利用と諸問題—光と影
- 第12回：プレゼンテーション作品の制作（1）—パワーポイントの使い方
- 第13回：プレゼンテーション作品の制作（2）—企画と資料収集
- 第14回：プレゼンテーション作品の制作（3）—作品を仕上げる
- 第15回：作品の発表と講評

**【成績評価の方法】**

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中必要に応じてレポート課題を与える。学期末に、制作したプレゼンテーション作品及び修了レポートの提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

**【教科書】**

テキストは使わないが、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ（DVD）、印刷物などを通じて資料提供を行う。

**【参考文献】**

井上智義（編）『視聴覚メディアと教育方法 Ver. 2』（北大路書房）  
 桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』（2008年度版）  
 無藤 隆（編）『テレビと子どもの発達』（東京大学出版会）  
 坂元 昂（監）『メディア心理学入門』（学文社）

科 目 名			
<b>実務英語</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	三 宅 亨

**【講義概要・学習目標】**

- Globalizationの進む中で、外国人とのコミュニケーションがますます必要になってきている。外国人との接触の機会は、かつてのように短期間の訪問者への対応だけでなく、今では同僚・友人として、あるいは仕事上での付き合いなど、日常的な生活の一部となりつつある。また出張、旅行などでの短期海外訪問・滞在や転勤などによる長期海外生活を送る日本人が珍しくない時代になってきた。
- この講義では、海外へでかけたり、外国人とのビジネス（社会面も含む）を円滑に進める上で最小限必要とされる英語（English for Business）の諸相を取り上げる。
- 毎回多量の英文を素早く読み取り、口頭および筆記による課題を与えるので、その覚悟で履修すること。
- また、受講者には積極的にTOEICを受験してもらいたい。

**【講義計画】**

以下の内容について、それぞれ2回にわたって学ぶ。

1. 自己PR
2. 新聞・雑誌の英語
3. 説明書・マニュアル・注意書きなどの読み方
4. 海外生活に必要な英語
5. 実用文の英語
6. 電子メール・手紙文
7. 英文履歴書

なお、学期期間中の世界の動向に応じて、適宜、時事的なテーマを取り上げる。

**【成績評価の方法】**

学期末定期試験は行わない。毎回の課題（小試験）と出席（attendance）、講義への参加度（participation）により評価する。社会人への訓練の場であるから、遅刻・欠席には厳しく対処する。正当な理由なくして6回以上欠席した学生には、それ以降の授業参加を認めない。

**【教科書】**

授業では、できるだけ最新の材料・内容を取り上げたいので、教科書は使用しない。その都度、プリント（handout）を配布する。

**【参考文献】**

授業中に、その都度指示する。

科 目 名			
<b>実務英語</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	三 宅 亨

**【講義概要・学習目標】**

この講義では、従来の貿易通信文という枠を超えて、社交通信文や電子メールを含めて、実社会に必要な実用英文を書くことに重点を置く。また、貿易通信文については貿易実務に関する基礎的な知識をも取り上げる。

毎回、相当量の英文を書くという課題を与えるので、十分な予習をして授業に臨むこと。

受講者には、積極的にTOEICを受験してもらいたい。

**【講義計画】**

基礎

1. ビジネスレターとは
2. 社内メモ
3. 電子メール
4. ビジネス通信文の本体

社交通信文

1. 出張にかかわる文
2. 紹介・招待
3. 祝賀と弔意
4. 社内外への通知文
5. 英文履歴書

貿易通信文

1. 取引関係の創設
2. 売買契約の成立
3. 売買契約の履行

貿易実務の基礎

**【成績評価の方法】**

学期末定期試験は行わない。毎回の課題（英文提出）と出席（attendance）、講義への参加度（participation）により評価する。社会人への訓練の場であるから、遅刻・欠席には厳しく対処する。正当な理由なくして6回以上欠席した学生には、それ以降の授業参加を認めない。

**【教科書】**

田中武雄『初めて学ぶビジネス英語』成美堂  
田中武雄

**【参考文献】**

授業中に指示する。

科 目 名			
<b>児童サービス論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	清 水 昭 治

**【講義概要・学習目標】**

この科目は、図書館における“児童サービス論”です。図書館、特に、公共図書館では、中学生までのサービスを児童サービスと考えられており、赤ちゃん・幼児向けの絵本から、小学生、中学生までの幅広い本が準備されています。子供達の成長にとって、読書がいかに必要か、その読書を支える児童サービスの重要性を考えます。生涯教育が叫ばれる中で、図書館の必要性は、ますます増大します。その時、図書館利用が習慣化されることは大切です。その習慣化の第一歩が図書館における児童サービスなのです。

**【講義計画】**

1. オリエンテーション
2. 児童・子供のための図書館はどこにある？
3. 児童・子供のための図書館には何がある？
4. 児童・子供とは何なのか？
5. 本を読むということとは？
6. 児童・子供図書館とは？
7. 児童・子供図書館員とは？
8. 児童・子供図書館の仕事 1
9. 児童・子供図書館の仕事 2
10. 児童・子供図書館の仕事 3
11. 児童・子供の発達と図書館 1
12. 児童・子供の発達と図書館 2
13. 児童・子供の発達と図書館 3
14. これからの児童・子供図書館
15. 試験

**【成績評価の方法】**

レポート、又は、試験に加えて、出席状況、平常成績とで総合評価します。

**【教科書】**

テキストは使用しません。講義と共に、多彩に出版されている子供の本を具体的に、実際に紹介しながら、又、「絵本読み」などを通じて、子供の本を楽しみながら、講義を進めます。

**【参考文献】**

参考文献は講義の中でお知らせします。又、実際の公共図書館の児童室あるいは、児童コーナーを体験しておいてください。

さ  
行

科 目 名			
<b>児童福祉論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	福 田 公 教

**【講義概要・学習目標】**

- 1 現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解させるとともに、児童福祉の社会的背景について理解させる。
- 2 現代社会における児童福祉の理念と意義について理解させる。
- 3 児童の福祉需要の把握方法について理解させる。
- 4 児童福祉に関する法とサービスの体系について理解させる。
- 5 民間サービスの社会的意味とその現状について理解させる。
- 6 児童福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
- 7 児童のための地域及び住環境整備と福祉用具について理解させる。
- 8 児童に対する相談援助活動について理解させる。

**【講義計画】**

- 1 現代社会と児童
  - 1) 人間の成長・発達と児童
  - 2) 家族と児童
  - 3) 社会と児童
- 2 現代社会と児童福祉
  - 1) 児童福祉理念の発達
  - 2) 概念と範囲
  - 3) 役割と意義
  - 4) 児童の権利及び児童虐待
- 3 児童の福祉需要の把握方法とその具体的内容
  - 1) 把握方法
  - 2) 具体的内容
- 4 児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容
  - 1) 児童福祉法
  - 2) 母子及び寡婦福祉法
  - 3) 母子保健法
  - 4) その他関連法規
- 5 児童に対する保健・医療・福祉サービスの現状
  - 1) 在宅サービス
  - 2) 施設サービス
- 6 民間サービスの役割と意義及びその現状
- 7 児童のための地域及び住環境の整備と福祉用具
  - 1) 地域と住環境の整備
  - 2) 福祉用具
- 8 児童福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
  - 1) 組織・専門職
  - 2) 連携のあり方
- 9 児童に対する相談援助活動
  - 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点
  - 2) 具体的事例

**【成績評価の方法】**

出席、レポートおよび試験の総合評価とする。

**【教科書】**

山縣文治編『よくわかる子ども家庭福祉』(第6版) ミネルヴァ書房

**【参考文献】**

- ・柏女霊峰編『児童虐待とソーシャルワーク実践』ミネルヴァ書房、2001年。
  - ・『子どもが語る施設の暮らし』編集委員会編『子どもが語る施設の暮らし』明石書店、1999年。
  - ・家庭養護促進協会編『信じあって親子・語りあって家族—里親・子ども・ケースワーカーの記録—』エピック、2001年。
  - ・林浩康著『児童擁護施設策の動向と自立支援・家族支援—自尊感情の回復と家族との協働—』中央法規、2004年。
  - ・山縣文治監修『児童相談所で出会った子どもたち—地域に根ざす相談機関の奮闘記—』ミネルヴァ書房、2000年。
- その他、講義中に適宜紹介する。

科 目 名			
<b>社会科学入門</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	熊 谷 次 郎

**【講義概要・学習目標】**

ロコミなど不確実な情報を基にこの科目を選択することがないように、まず注意しておきたいことを書いておく。第一にこの科目の担当者と内容が昨年度とは大きく異なっていること、第二に通年という少し長丁場の講義形態であること、である。社会科学とは、厳密には、社会諸科学 (social sciences) のことであり、それは経済学、政治学、社会学、法学、経営学などを意味する。東大には社会科学研究所があり、早稲田には社会科学部という学部がある。それらのホームページをみると、社会科学に関連するどれかの分野に相当する研究テーマや科目が並んでいるだけといっても過言ではなく、文字通り社会諸科学を一つの総合的な研究対象とすることが、いかに難しいかということを示している。中級程度の公務員試験問題集も「社会科学」となっているが、中身は上記のさまざまな科目を羅列しているだけである。政治的・経済的・社会的等々の諸現象に日常まると接している総体としての人間や総体としての社会を理解することがいかに困難であるか、ということであろう。この講義もこうした難しさのある意味では語る講義とならざるを得ない。さしあたり入門であることを考慮して、経済学、政治学、社会学、哲学、歴史学等におけるこれまでの知見をもとに、人間とは何か、社会とは何か、といった問題が歴史の中で(歴史としての現代も含めて)どう考えられてきたか、という点を話したいと思っている。また社会科学だけでなく人文科学といわれている分野の古典的な著作の読書案内も兼ねた講義にしたいと考えている。日本は世界に類を見ない翻訳王国だから、古今東西の名著が日本語で手軽に読める環境にある。入門というのは当該分野の読書案内をも含むと思うので、学生の本離れに少しでも歯止めがかかればと願っている。

**【講義計画】**

1. 社会科学とは何か
  - (1) 社会科学とは何か
  - (2) 科学革命と社会科学の成立
  - (3) 社会科学の方法
2. 人間をどう理解するか
  - (1) 社会的存在としての人間と社会構造・社会制度
  - (2) イギリス経験論における人間
  - (3) 労働と自然との物質代謝
  - (4) 遊戯する存在——ホモ・ルーベンス
  - (5) 機械に擬せられた人間——人間機械論
  - (6) 合理的にして非合理的な存在——快苦計算と「見せびらかしの消費」
  - (7) 経験と行動——プラグマティズムの人間観
3. 社会と国家をどう理解するか
  - (1) 有機体的社会観(オルガニズム)と機構的社会観(メカニズム)
  - (2) 古代ギリシャ人の国家社会観——プラトンとアリストテレス
  - (3) 中世の社会観——トマス・アクィナス
  - (4) マキャベリの主権者論
  - (5) 社会契約論の諸相
    - ①ホッブス
    - ②ロック
    - ③ルソー
  - (6) 階級的國家論
  - (7) 功利主義的國家論
4. 資本主義をどう見るか
  - (1) アダム・スミスの資本主義観
  - (2) マルクスの資本主義観
  - (3) ウェーバーとゾンバルトの資本主義観
    - ①敬虔・勤勉・節欲——ウェーバー
    - ②冒険・欲望・奢侈——ゾンバルト
  - (4) 資本主義と帝国主義——レーニンの帝国主義論とその批判
  - (5) ケインズの資本主義観——自由放任の終焉
  - (6) シュンペーターの資本主義観——起業家の創造的破壊
  - (7) ハイエクの資本主義観——自由・市場・知識

**【成績評価の方法】**

中間試験と期末試験との総合点で評価する。

**【参考文献】**

その都度必要に応じて提示する。

**【備考】**

毎回資料を配付する予定。資料だけ取って出て行くというような破廉恥にして卑劣な行為はしないこと。遅刻・途中退出等の際には必ず理由を言うこと。

## 科 目 名

## 社会学

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期集中	4単位	石 田 あゆう

**【講義概要・学習目標】**

今日の社会について、「コミュニケーション」をキーワードに理解する。

コミュニケーションとは、人間関係を意味することもあれば、互いにやりとりする過程そのものを指すことも多い。また情報伝達をそう呼ぶ場合もある。いずれにせよ、コミュニケーションから見えてくる人々の関わり間の様々な特徴から、社会諸相について学ぶ。

身近な人間関係から、普段はあまり意識されない今日の文化現象を支えるコミュニケーションまで、幅広いテーマを取りあげル予定である。「社会」とはいったい何であるのかを積極的に考えることを受講者には求める。自分なりに世の中について考える思考力を養うことを目標とする。

**【講義計画】**

1. 講義ガイダンス（ガイダンスに受講者はできるだけ出席すること）
2. 社会学の登場
3. 社会学的思考
4. 犯罪は「異常」か
5. 自殺は「異常」か
6. 「個人」と社会について考える
8. 「社会の不思議」について考える
9. 「社会的役割」と社会について考える
10. 「流行」と社会について考える
11. 通信教育からみる日本（1）
12. 通信教育からみる日本（2）
13. 通信教育からみる日本（3）
14. 全体のまとめ
15. 最終試験

**【成績評価の方法】**

出席点は基本的に認めないが、講義内容についてコメントを求めていることがある。質問者として講義への参加・貢献に応じて評価する（5%~10%）。

レポート2回（50%）、試験1回（40%）を予定しているが、回数、内容等を変更する場合があるので、第一回目の講義ガイダンスに出席のこと。

**【教科書】**

佐藤卓己、井上義和編 ラーニング・アロン 新曜社  
2007年12月現在未刊のため、詳細は講義開始時にアナウンスする。

**【参考文献】**

適宜紹介する。  
また印刷して資料を配付することもある。

科 目 名			
<b>社会学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	宮 本 孝 二

**【講義概要・学習目標】**

この講義は共通教養としての社会学の基礎知識を習得していただくことを目的としているが、同時に社会福祉士・精神保健福祉士資格の取得に必要な社会学科目としても提供される。社会学は家族から国際社会に至る種々の社会生活の場、そこに生じる諸問題、多様な文化現象などを対象としており、社会学を学ぶことによって、知識と視野を広げ多角的な視点を獲得しつつ、問題解決や意味解読の力を身につけることが可能となろう。講義は、社会福祉士・精神保健福祉士資格の国家試験の社会学出題基準に対応して進めるが、社会福祉学科以外の学部学科の皆さんにも受講を勧めたい。

**【講義計画】**

- 1 近代・現代の社会変動（1）近代化
- 2 近代・現代の社会変動（2）産業化
- 3 近代・現代の社会変動（3）その他の諸トレンド
- 4 社会意識と社会的性格
- 5 大衆社会論の展開
- 6 人口構造とその変動
- 7 生活構造とその変動
- 8 ジェンダー論の展開
- 9 生活時間とボランティア
- 10 科学技術と環境問題
- 11 情報化社会とマスコミ
- 12 階級・階層とSSM調査
- 13 貧困問題とアンダークラス
- 14 組織論の展開（1）官僚制論とその批判
- 15 組織論の展開（2）ポスト官僚制の時代
- 16 職業と労働（1）分類の方法
- 17 職業と労働（2）労働力人口
- 18 職業と労働（3）専門職集団と職業倫理
- 19 家族の構造（形態）
- 20 家族の機能
- 21 家族の形成と解体
- 22 家族問題と家族変動
- 23 都市社会学とシカゴ学派
- 24 現代の都市問題と地域問題
- 25 社会問題論の展開
- 26 逸脱問題と統制
- 27 社会運動と問題解決過程
- 28 まとめと補足

以上の内容を順次解説していく。

**【成績評価の方法】**

学期末試験（重要用語の空欄埋め問題と自由選択テーマの論述問題）の結果によって評価する。

**【教科書】**

特に使用しない。配布資料によって講義を進める。

**【参考文献】**

その都度必要に応じて紹介する。

**【備考】**

<SW生>対象

科 目 名			
<b>社会学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期集中	4単位	鈴 木 富 久

**【講義概要・学習目標】**

「社会理論の基礎知識」  
全体としての社会はどのようなものかという問題は、やっかいな問題である。  
本講は、19世紀以来、この問いをめぐって社会学において展開されてきた様々な社会理論を、その提唱者ごとにとりあげ、その基礎を学び、現代社会とそれが抱える諸問題をより広い視野からより深く考えることができる力を養うことを目標とする。理論的な思考力を身につけるように努めてもらいたい。

**【講義計画】**

はじめに

1. コント——社会進歩の法則と産業社会
2. マルクス——歴史と資本主義
3. ヴェーバー——生の合理化と官僚制
4. デュルケム——集合意識と有機的連帯社会
5. ミード——自我の形成と社会の形成
6. グラムシ——ヘゲモニーと市民社会
7. パーソンズ——システムとしての現代社会
8. ルーマン——システム論の意味論的再構成
9. ハーバーマース——システムとコミュニケーション
10. ブルデュー——文化資本と実践
11. フーコー——権力と自己実践

むすび

**【成績評価の方法】**

試験の成績（50％）と読書レポートの成績（50％）の総合評価

**【教科書】**

使用しない。講義中に詳細なレジメを配布する。

**【参考文献】**

講義中に文献リストを配布する。

科目名			
<b>社会学基礎講義</b>			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	春学期集中	4単位	石田 あゆう

**【講義概要・学習目標】**

現代社会の問題を分析することを通じて「社会学」をしてみよう。何よりも現在の世の中について関心を持つこと、持てるようになることを目標とする。  
一回生向け講義なので、まず「社会学」とはどのような考え方をする学問なのかに興味を持ってもらいたい。取り上げるのは(1) 家族、(2) 仕事、(3) 教育、(4) 消費の四つである。それぞれのテーマが現代社会において抱えている問題とは何であるのかを明確化し、その上でどのような議論が社会学ではなされているのかを理解する。  
読解力、思考力、文章力を養うための課題を適宜提出してもらう。

**【講義計画】**

1. 講義ガイダンス (受講者ではできるだけ出席すること)
2. 社会学からみた家族問題 (1) - 女性論
3. 社会学からみた家族問題 (2) - 結婚論
4. 社会学からみた家族問題 (3) - 少子化論
5. 若者を取り巻く社会状況 (1) - ニート問題
6. 若者を取り巻く社会状況 (2) - 転職問題
7. 若者を取り巻く社会状況 (3) - 人間関係の問題
8. 現代教育の何が問題なのか (1) - 学力低下論
9. 現代教育の何が問題なのか (2) - 学歴問題
10. 現代教育の何が問題なのか (3) - 階層問題
11. 消費社会の特徴とは何か (1) - 平等と不平等
12. 消費社会の特徴とは何か (2) - 消費コミュニケーション
13. 消費社会の特徴とは何か (3) - エコロジー問題
14. 全体まとめ
15. 最終試験

**【成績評価の方法】**

出席点は基本的に認めないが、講義内容についてコメントを求められることがある。質問者として講義への参加・貢献に応じて評価する(5%~10%)。  
レポート4回(60%)、試験1回(30%)を予定しているが、回数、内容等を変更する場合がありますので、第一回目の講義ガイダンスに出席のこと。

**【教科書】**

山田昌弘 『少子化社会：もうひとつの格差のゆくえ』岩波新書  
三浦展 『下流社会：新たな階層集団の出現』光文社新書

**【参考文献】**

・本田 由紀、内藤 朝雄、後藤 和智『「ニート」って言うな!』光文社新書、2006年  
・荻谷 剛彦、清水 睦美、志水 宏吉、諸田 裕子『調査報告「学力低下」の実態』岩波ブックレット、2002年  
ほか。適宜紹介する。

科目名			
<b>社会学基礎講義</b>			
クラス	講義区分	単位数	担当者
02	春学期集中	4単位	鈴木 富久

**【講義概要・学習目標】**

社会学があつかう問題は、各人の日常生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の修得によってそれが見えてくる。だがそのためには、なによりも現実社会への関心を高めることが大切だ。  
そこで講義では、前半・第Ⅰ部において、現代日本社会の現状と問題につき、総論的にも各論的にも資料を使って講じ、後半・第Ⅱ部で、社会学の基礎概念をいくつか取りあげて理論的な解説をする。  
第Ⅰ部と第Ⅱ部を通じて、受講者が、社会的現実にたいする社会的な関心と認識を高め、理論的感覚をも養うことにより、社会学の学習・研究に入門することができるようにすることが、本講の学習目標である。

**【講義計画】**

- 序. 社会学の視点  
第Ⅰ部 現代日本社会の現状と問題  
§ 1. 世界の中の現代日本  
§ 2 以降、人口構成、家族、労働、社会保障、教育、治安、等の諸分野の現状と問題を解明する。  
第Ⅱ部 基礎概念  
§ 1. 行為と文化・社会規範  
§ 2. 組織と集団  
§ 3. 階級と国家・市民社会  
§ 4. 人間の社会化  
結語 現代社会と社会学

**【成績評価の方法】**

(1) 試験の成績、(2) レポートの成績、(3) 出席状態等を総合して評価する。

**【教科書】**

使用しない。講義プリントおよび資料を講義中に配付する。

**【参考文献】**

- 見田宗介『社会学入門』岩波新書
- 山田昌弘『希望格差社会』筑摩書房
- 関口裕子・他『家族と結婚の歴史』森話社
- ロナルド・ドーア『働くということ』中公新書
- 阿部謹也『ヨーロッパを見る視角』
- エスピン・アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房
- その他は講義で紹介するが、浜島・他編『社会学小辞典』有斐閣、等の専門小辞典を各自所持することが望ましい。

さ  
行

科 目 名			
<b>社会学基礎講義</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期集中	4単位	竹 内 真 澄

**【講義概要・学習目標】**

社会学の視点や基礎概念を使って、近・現代社会の成り立ちやその変化、あるいは人間的な現象の偉大さ、愚かさ、面白さについて皆さんと一緒に考えていきたい。見えなかったところが見えるようになったり、いままで無問題と思えたものが重大な問題と思えるようになったり、気づいていなかった素晴らしい価値に自己をむすびつけたりできれば、よいなあと思っている。

**【講義計画】**

- 第1回 インTRODakション
- 第2回 社会のなかの個人、個人のなかの社会
- 第3回 福沢諭吉と近代社会
- 第4回 夏目漱石と近代社会
- 第5回 階級と市民
- 第6回 階級と人種
- 第7回 労働力の商品化
- 第8回 市民と非市民
- 第9回 男性・女性・社会
- 第10回 社会と国家という近代の構図
- 第11回 社会に法則はあるか
- 第12回 中流社会と格差社会
- 第13回 家族を考える
- 第14回 市場を考える
- 第15回 国家を考える
- 第16回 資本主義と社会問題
- 第17回 環境問題
- 第18回 人権の発展と社会の変化
- 第19回 アメリカをどうみるか
- 第20回 <いやいやながらの福祉国家>アメリカ
- 第21回 アメリカ<帝国>
- 第22回 戦後日本社会の3つの可能性
- 第23回 日本の企業中心社会の形成
- 第24回 日本の新自由主義
- 第25回 ヨーロッパをどう見るか
- 第26回 ヨーロッパ福祉国家の形成
- 第27回 「社会的ヨーロッパ」のモデル
- 第28回 総括 グローバル化する現代社会

**【成績評価の方法】**

期末試験（70%）、出席（20%）、レポートなど（10%）

**【教科書】**

指定しない。随時プリントを配布する。

**【参考文献】**

福沢諭吉『学問のすすめ』岩波文庫  
 夏目漱石『漱石文明論集』岩波文庫  
 阿部謹也『日本人の歴史意識』岩波新書  
 高木八尺他編『人権宣言集』岩波文庫  
 カール・マルクス『資本論』岩波文庫  
 T・H・マーシャル『シティズンシップと社会的階級』法律文化社  
 水田珠枝『女性解放思想の歩み』岩波文庫  
 見田宗介『現代社会の理論』岩波新書  
 竹内章郎『哲学塾 新自由主義の嘘』岩波書店  
 渡辺雅男『市民社会と福祉国家』昭和堂  
 後藤道夫他『格差社会とたたかう』青木書店  
 宮島喬『ヨーロッパ市民の誕生』岩波新書

科 目 名			
<b>社会学基礎講義</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	春学期集中	4単位	北 川 紀 男

**【講義概要・学習目標】**

この科目は、これから社会学を学ぼうとする学生を対象にした講義である。社会学とは、何を、どのように研究する学問なのかをできるだけ平易に話すつもりである。われわれの生きる社会の中に、社会的にみて如何に興味ある課題が隠されているのかを具体的な問題を取りあげて考察し、社会学に対する関心を啓発したい。社会学にどのような研究領域があるのか、またその研究にはどのような方法があるのかを学び取って欲しい。加えて、社会学を学ぶ上で必要な基礎的概念や専門用語などの基礎知識を修得しなければならない。この科目は、四年間の学部教育を左右する重要なものであるから、心して真剣に受講して欲しい。

**【講義計画】**

- (1) インTRODakション
- (2) 社会学の成立
- <社会学の方法>
- (3) 社会学とは如何なる学問なのか
- (4) 現代社会をキャッチする
- <個人化する社会と親密性の罍>
- (5) 氾濫する親密性
- (6) 親密性の本性、そしてそのゆくえ
- <学校から職業へ>
- (7) 生き方のイメージ
- (8) 大衆教育社会と自己実現
- <非行文化を喪失した少年犯罪>
- (9) 脱集団化する少年犯罪
- (10) 脆弱化する自己肯定感
- <地域社会の崩壊と再生の模索>
- (11) 岐路に立つ地域社会
- (12) 地域社会の社会的分析
- <豊かな社会の格差と不平等>
- (13) 総中流社会から格差・不平等社会へ
- (14) 現代の社会階層
- <社会変動と文化現象>
- (15) みんなが軽くなった
- (16) 出版動向の変容とその問題点
- <ジェンダー・フリーのゆくえ>
- (17) ジェンダー視点で近現代日本社会をみる
- (18) ジェンダー・フリーのゆくえ
- <ネオリベリズムと福祉国家>
- (19) ネオリベリズムの台頭と福祉国家
- (20) 21世紀の福祉レジーム
- <リスク社会の克服>
- (21) リスク化する社会
- (22) 社会学はリスク社会をどう見ているか
- <21世紀社会と人類の幸福>
- (23) 人類の不幸としての「圧倒的な非対称」
- (24) グローバル化の悪夢と、そこからの脱出
- <グローバル化と文明の共生>
- (25) グローバル化の功罪
- (26) 文明の共生のために
- <補足的解説>
- (27) 基礎用語、基礎概念、基礎文献の解説
- (28) まとめ

**【成績評価の方法】**

学期末試験を中心に評価するが、学習状況を見てレポートを課して加味することもある。

**【教科書】**

友枝敏雄・山田真茂留（編）Do! ソシオロジー ～現代日本を社会学で診る～ 有斐閣

**【参考文献】**

適宜指示する



科 目 名			
<b>社会学基礎講義</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	秋学期集中	4単位	鈴木 富久

**【講義概要・学習目標】**

社会学があつかう問題は、各人の日常社会生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の修得によってそれが見えてくる。だがそのためには、なによりも現実社会への関心を広げ高めることが大切だ。

そこで講義では、前半・第Ⅰ部において、現代日本社会の現状と問題につき、総論的にも各論的にも資料を使って講じ、後半・第Ⅱ部で、社会学の基礎概念をいくつか取りあげて理論的な解説をする。

第Ⅰ部と第Ⅱ部を通じて、受講者が、社会的現実にたいする社会的な関心と認識を高め、理論的感覚をも養うことにより、社会学の学習・研究に入門することができるようにすることが、本講義の学習目標である。

**【講義計画】**

序 社会学の視点

第Ⅰ部 現代日本社会の現状と問題

§ 1. 世界の中の現代日本

§ 2以降、人口構成、家族、労働、社会保障、教育、治安、等の諸分野の現状と問題を解明する。

第Ⅱ部 基礎概念

§ 1. 行為と文化・社会規範

§ 2. 組織と集団

§ 3. 階級と国家・市民社会

§ 4. 人間の社会化

結語 現代社会と社会学

**【成績評価の方法】**

(1) 試験の成績、(2) レポートの成績、(3) 出席状態等を総合して評価する。

**【教科書】**

使用しない。講義プリントおよび資料を講義中に配付する。

**【参考文献】**

- 見田宗介『社会学入門』岩波新書
- 山田昌弘『希望格差社会』筑摩書房
- 関口裕子・他『家族と結婚の歴史』森話社
- ロナルド・ドーア『働くということ』中公新書
- 阿部謹也『ヨーロッパを見る視角』
- エスピン・アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房
- その他は講義で紹介するが、浜島・他編『社会学小辞典』有斐閣、等の専門小辞典を各自所持することが望ましい。

科 目 名			
<b>社会学原論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	宮本 孝二

**【講義概要・学習目標】**

社会学原論は、どのような社会現象においても成立している基本的な社会構成を体系的に明らかにすることをめざす。すなわち、社会とは何か、社会の一般的特性とは何かを、行為や相互行為から構造や変動に至る基礎概念の分析、社会学史に登場する多様な社会理論の紹介を通じて、明らかにしようとするのである。

また、社会を一般的な理論として解明することは、社会を全体的な視点から把握することに接続していかざるをえない。すなわち、マクロな変動論を媒介にして、社会学原論と現代社会論(近代化というマクロなトレンドのなかで各時点において社会を全体的に把握することをめざすという意味での)とが、統一的に把握されることになるのである。したがって、近代化に含まれる諸トレンドや現代社会の全体的構成についても解説する。

**【講義計画】**

- 1 社会学原論とは何か；社会理論の全体像
- 2 人間の特性 (1) 意味づけ
- 3 人間の特性 (2) 資源動員
- 4 社会の形成 (1) 動物的群れから人間社会へ
- 5 社会の形成 (2) 国家の形成、伝統的国家、近代化
- 6 社会理論における相互行為論の位置
- 7 コミュニケーションの社会理論 (1)
- 8 コミュニケーションの社会理論 (2)
- 9 サンクションの社会理論 (1)
- 10 サンクションの社会理論 (2)
- 11 エクスチェンジの社会理論 (1)
- 12 エクスチェンジの社会理論 (2)
- 13 コンフリクトの社会理論 (1)
- 14 コンフリクトの社会理論 (2)
- 15 構造という視点
- 16 構造主義とポスト構造主義
- 17 国民国家の構造とエリート論
- 18 階級・階層構造と変動
- 19 場と全体
- 20 近代化と現代社会論
- 21 戦後日本社会と現代社会論
- 22 1970年代以降の世界 (1)
- 23 1970年代以降の世界 (2)
- 24 近代の社会理論家たち (1)
- 25 近代の社会理論家たち (2)
- 26 現代の社会理論家たち (1)
- 27 現代の社会理論家たち (2)
- 28 まとめと補足

以上の内容を、順次28回で講義する

**【成績評価の方法】**

学期末試験(重要用語の空欄埋め問題と自由選択テーマの論述問題)によって評価する。

**【教科書】**

特に使用しない。配布資料に基づいて講義を進める。

**【参考文献】**

- 宮本孝二『ギデنزの社会理論』(1998年、八千代出版)
- 新睦人編『現代社会理論のあゆみ』(2006年、有斐閣)

科 目 名			
<b>社会学史</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	竹 内 真 澄

**【講義概要・学習目標】**

社会学の歴史を扱う。社会学は、社会の総体を市民社会に焦点を当てて分析する学問である。社会学は、19世紀の中ごろに、18世紀思想が直面したのとは違った社会的現実と直面し、これを自覚することから生まれ、広がった。社会学は、それ以来、世界資本主義の先端部分の新しい社会問題に対処するために次々にかたちを変えていった。社会学という学問が、初期の資本主義、自由放任資本主義、国家介入資本主義、そして多国籍企業的資本主義の各段階に応じて何を問題としてうけとめながら現在に至ったかを検討する。

**【講義計画】**

- (1) 社会学史と世界資本主義・対象と方法
  - 第1部 近代市民社会の理想と現実
- (2) 18世紀ヨーロッパ啓蒙期の学問の二つの道
- (3) 市民社会の発見・・・スミス
  - 第2部 自由主義的資本主義と社会学の誕生
- (4) コントの社会学の基本構造
- (5) 自由主義的資本主義の擁護
- (6) 自由主義的資本主義の終焉
- (7) スペンサーにおける有機体、適応、個人化
- (8) 自由主義的資本主義における労働者と女性
- (9) 近代ブルジョア社会批判の論理
- (10) 資本主義における搾取と開発
- (11) 資本主義と人間の再生産
- (12) 資本主義システムの基本矛盾
- (13) 未来社会と<個人>
- (14) 福沢諭吉と日本近代化
  - 第3部 国家介入的資本主義の社会学
- (15) ホブハウスと<社会的自由主義>の社会学
- (16) 生存競争から生存権へ
- (17) デュルケム社会学における連帯
- (18) デュルケム社会学と中間集団論
- (19) ウェーバー社会学と国家介入的資本主義の限界
- (20) 戦時日本の抵抗と「市民社会」概念
- (21) ファシズム批判と戦後世界
- (22) 南北問題と世界システム
- (23) アメリカ資本主義と家族の問題
- (24) シティズンシップと福祉国家
- (25) コミュニケーション的行為論と福祉国家
  - 第4部 多国籍企業的資本主義の社会学
- (26) 福祉国家と脱商品化
- (27) ネオ・リベラリズムの社会理論
- (28) まとめにかえて・・・現代社会学の思想的課題

**【成績評価の方法】**

期末試験にて評価する

**【参考文献】**

T・パーソンズ『社会的行為の構造』木鐸社  
 J・ハーバーマス『コミュニケーション的行為の理論』未来社  
 内田義彦『社会認識の歩み』岩波新書  
 アクセル・ホネット、竹内他訳『正義の他者』法政大学出版局  
 ハワード・ジン、竹内訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房

科 目 名			
<b>社会学特講－釜ヶ崎と人権</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	原 口 剛

**【講義概要・学習目標】**

釜ヶ崎とは、日本最大の「寄せ場」、すなわち日雇労働者の集住地域である。釜ヶ崎の日雇労働者は、建設業など日本の基幹産業に携わってきたが、その労働や生活は、さまざまな面で差別され、人権を奪われてきた。本講義では、さまざまな視点から釜ヶ崎を考えることをつうじて、釜ヶ崎についての正しい知識を習得すると同時に、わたしたちはどのような社会を生きているのかという問いを、受講生ひとりひとりの課題として考えてもらいたい。

講義のテーマは、以下のとおりである。

- ①「釜ヶ崎労働者の労働と生活」では、釜ヶ崎において日雇労働者がどのような労働にたずさわり、またどのような日常生活を営んでいるのかを考える。
- ②「釜ヶ崎の歴史」では、近現代の釜ヶ崎の歴史を紐解きながら、なぜ釜ヶ崎という場所に簡易宿所（どや）が立地するようになったのか、なぜ釜ヶ崎が単身男性日雇労働者のまちになったのか、といったテーマについて学ぶ。
- ③「釜ヶ崎・野宿の現在」では、1990年代から現在まで、釜ヶ崎がどのように変わったのか（変えられたのか）、そして野宿生活者に対してどのような政策がとり行われているのか、といったテーマについて学ぶ。
- ④「ホームレスとは誰か」では、①～③で学んだことを踏まえて、「フリーター」「ネットカフェ難民」「ワーキングプア」など、近年社会問題として注目されつつある新たな貧困をどのように捉え、向き合うことができるのかを考える。
- ⑤最後に講義全体のまとめとして、釜ヶ崎の視点から日本の経済・社会システムの問題点を捉えなおし、社会的排除を食い止めるための道筋を考えていきたい。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 釜ヶ崎労働者の労働と生活①
- 第3回 釜ヶ崎労働者の労働と生活②
- 第4回 釜ヶ崎の歴史①：木賃宿街の成立
- 第5回 釜ヶ崎の歴史②：高度経済成長と釜ヶ崎
- 第6回 釜ヶ崎の歴史③：万博と釜ヶ崎
- 第7回 釜ヶ崎・野宿の現在①：労働市場からの排除
- 第8回 釜ヶ崎・野宿の現在②：まちづくりと社会的包摂
- 第9回 釜ヶ崎・野宿の現在③：イベントと野宿者排除
- 第10回 釜ヶ崎・野宿の現在④：自立支援施策の展開と問題点
- 第11回 ホームレスとは誰か①：フリーターを考える
- 第12回 ホームレスとは誰か②：ネットカフェ難民を考える
- 第13回 ホームレスとは誰か③：ワーキング・プアを考える
- 第14回 講義のまとめ①：経済・社会システムを捉えなおす
- 第15回 講義のまとめ②：人権・場所・社会関係資本

**【成績評価の方法】**

平常点50%、期末レポート50%

**【教科書】**

特になし

**【参考文献】**

その都度指示する。

科 目 名			
<b>社会学特講キャリアカウンセリング入門</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	西 川 桜 子

**【講義概要・学習目標】**

職業により、毎日の生活の仕方、人間関係、生活環境、時には余暇活動などの仕事以外の活動までが異なります。ですから、職業選択は生き方の選択でもあります。本科目では、“キャリア”を職業や職歴だけでなく、家庭内での仕事や地域活動、ボランティア、趣味活動なども含めた幅広い概念として捉え、個人の特性を活かした職業や生き方の選択を支援する“キャリア カウンセリング”の基礎を解説します。

**学習目標**

受講生の皆さんがキャリア カウンセリングの歴史、(代表的)理論、基本的なプロセス(進め方)、テクニック(技巧)とキャリアカウンセリングのコミュニケーションスキルについて理解することを目標とします。本科目でキャリアの選択に影響する様々な要因について学習することは、受講生の皆さんの自己理解を深める機会にもなります。

**【講義計画】**

(※一部変更する場合があります)

**春学期**

- 1 週目:授業計画、課題、評価方法の説明、カウンセリングとは?
- 2 週目:“キャリア”が意味すること キャリアカウンセリングとは?キャリアカウンセリングの歴史、キャリアカウンセリングの必要性・ニーズ
- 3 週目:キャリア カウンセリングの理論 I—特性因子 (Trait-and-Factor) 理論 発達学的 (Developmental) 理論
- 4 週目:キャリア カウンセリングの理論 II—類型学的 (Typology) 理論
- 5 週目:キャリア カウンセリングの理論 III—社会学習 (Social Learning) 理論 & A Needs Approach
- 6 週目:キャリアカウンセリングの理論IV—キャリアアンカー
- 7 週目:キャリア カウンセリングのプロセス (進め方) キャリア インタビューレポート (課題) の説明
- 8 週目:第1ステップ 現状把握・自己分析 “Who am I?” セルフ アセスメント I—興味、性格、& 態度
- 9 週目:セルフ アセスメント II—価値観、動機、& 使命感
- 10週目:セルフアセスメント III—技術・技能 & 能力
- 11週目:セルフ アセスメント IV—役割 キャリアジェノグラム (家系図)
- 12週目:セルフ アセスメント V—キャリアの壁
- 13週目:復習、中間テストの説明
- 14週目:中間テスト

**秋学期**

- 1 週目:秋学期の授業計画、課題、評価方法の説明 春学期の授業内容の復習 キャリアカウンセリングの技法I (基礎) —コミュニケーションのレベル 非言語要素 (姿勢、目線、身振り、手振り、表情、声、身体スペース、癖など) (nonverbals)
- 2 週目:キャリアカウンセリングの技法II (基礎) —感情反映 (reflection of feelings)
- 3 週目:キャリアカウンセリングの技法III (基礎) —言い換え (reflection of content) 明確化 (clarification)
- 4 週目:キャリアカウンセリングの技法IV (基礎) —質問 (questions / probes) まとめ (summarization)
- 5 週目:キャリアカウンセリングの技法V (応用) —矛盾提示 (challenging / confrontation) 解釈 (interpretation) リフレーミング (reframing) 情報提供 (presentation of information) 自己開示 (self-disclosure)
- 6 週目:キャリアカウンセリングの技法VI (応用) —抵抗するクライアントの理解と対処方法
- 7 週目:第2ステップ 目標設定 “Where am I going?”
- 8 週目:第3ステップ 目標達成 “How do I get there?” 構内のキャリアセンター・学生相談室とアメリカの大学のキャリアセンター・カウンセリングセンターの紹介
- 9 週目:キャリアカウンセラーの条件・資格・活動領域

- 10週目:文化的視点からみたキャリアカウンセリング (文化的価値観、異文化適応、マイノリティ・少数派として生きること、社会で直面する差別・偏見など)
- 11週目:性という視点からとらえたキャリアカウンセリング (男性・女性に特有の問題など)
- 12週目:身体的・精神的“障害”とキャリアカウンセリング
- 13週目:復習、ケーススタディ (事例)、期末テストの説明
- 14週目:期末テスト

**【成績評価の方法】**

キャリア インタビュー レポート  
中間テスト  
期末テスト  
授業出席・参加状況

**【教科書】**

宮城まり子 キャリアカウンセリング 21世紀カウンセリング叢書 駿河台出版社  
(※その他、毎週プリントを授業中に配布します。)

**【参考文献】**

『カウンセリング テクニック入門』(大谷彰著)  
(有) 二瓶社 (ISBN: 4-86108-011-8)

さ  
行

科 目 名			
社会学特講－死生観の社会心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	渡 部 美穂子

#### 【講義概要・学習目標】

私たちが日常生活で死について深く考えることはあまりない。その一方で、初等教育の現場でも「命の大切さ」を取り上げる必要性がかまびすしく議論されるほど、青少年による凶悪犯罪やいじめ、自殺問題は深刻であり、さらには脳死臓器移植、終末期医療など、死に関わる社会問題は現代における重要なテーマのひとつである。

この講義では、受講生みなさんに「自分自身の死」だけでなく、「近い大切な他者の死」の問題について考えてもらうことを通して、少子高齢化が進む現代社会が抱えるさまざまな問題についての考察をも深めてもらうことを目的としている。そのため、ドキュメンタリー映像などを用いて死に直面する家族などの姿にも接してもらい、その内容についてのグループ討議にも参加してもらう。

週に一度、真剣に死について思いをはせる、自分の意見を他者に伝えて討論する、ということについて覚悟をもって、受講していただきたい。

#### 【講義計画】

- ・現代における死の問題
- ・大切な人の突然の死
- ・グリーフ・ワークとグリーフ・ケア
- ・脳死・臓器移植問題
- ・自殺について
- ・葬送儀礼と来世信仰
- ・自己と他者の死への態度
- ・死への態度の規定因

(注) 上記は必ずしも講義順序を示すものではない

#### 【成績評価の方法】

ほぼ毎回、小テストや講義内容に関する記述報告をしてもらうことで、出席を確認するとともに、真摯に授業に取り組んでいるかを評価して、それを出席点とする。また、テーマ内容に沿った参考文献を読んで少なくとも1度はレポートを作成してもらう予定である(詳細は講義中に説明する)。

深刻なテーマであることから、私語などで他の受講生に迷惑をかける行為には厳正に対応する。

#### 【教科書】

使用しない

#### 【参考文献】

講義内容に応じて適宜指示する

科 目 名			
社会学特講－日本人の悩みの変遷			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	池 田 知 加

#### 【講義概要・学習目標】

##### 講義概要

この講義は、新聞や雑誌に掲載された人生相談コラムを資料としながら、一般の人たちが日々の生活の中で、どのような問題に悩み、また、その問題に対してどのような解決や対処方法を考えてきたかについてみていきます。そうした個人が抱える悩みや問題は、裏返せば、一人ひとりにとって「幸せ」の内実を映し出すものでもあります。そのため、本講義では個人的な悩みとその向こうにある幸福の内実とそれらの変化を同時にみていくこととなります。そして、その悩みの変化から、戦後日本社会の社会意識の動向や社会のあり方を考察していきます。それは、幸せになりたい、今のこの現状をどうにか変えたいという願いを、社会とつなげて考えてみるということです。

##### 学習目標

「人生相談」といった質的資料を分析するための方法をまずは理解することを前提にします。そして、人の悩みや、悩みへの解決策というのは、個別的なものでありながら、時代の価値観や社会のあり方を大いに反映していることを理解することを目標にします。つまり、個別的な事柄から、普遍的な何かをとりだしてやること、そしてそれを各自がフィードバックして、自分にあてはめたりしながら、社会のあり方へと思考を広げて、「私」の問題を「社会」のあり方や問題とつなげていくような思考を身につけてほしいと思います。

#### 【講義計画】

- 1 イントロダクション
- 2 資料への視点①自己開示コミュニケーション
- 3 資料への視点②説得コミュニケーション
- 4 資料への視点③相互作用としてのコミュニケーション
- 5 女性の悩みの変遷①女性にとっての「家庭」
- 6 女性の悩みの変遷②「家庭」と「愛情」の意味変容
- 7 男性の悩みの変遷①男性にとっての「仕事」
- 8 男性の悩みの変遷②「家庭」と「仕事」のはざま
- 9 若者の悩みの変遷①人生目標の変化
- 10 若者の悩みの変遷②個性主義の開花
- 11 自己決定主義の現在
- 12 個人化と意味喪失
- 13 コミュニケーションと規範
- 14 まとめ：個と社会のつながり
- 15 試験

#### 【成績評価の方法】

期末試験と日常点。日常点として授業内にミニレポートを課す場合があります。

#### 【教科書】

池田知加『人生相談「ニッポン人の悩み」 幸せはどこにある?』光文社新書

#### 【参考文献】

授業で紹介します。